

六 元禄十一年一月ゝ十二月

(表紙)

「元禄十一年戊寅年

万覚帳

正月朔日の極月晦日迄

土屋次郎左衛門

元禄十一戊寅年

正月一日

同二日

同三日

同四日

同五日

一舟寄御陣屋へ年始之御礼ニ参、則於御陣屋御雑煮・御盃等被下候

同六日

一助左衛門様の夕御料理被下候、何も与頭中不残、三国川内屋・長

尾自休・魚屋宗右衛門共ニ

丑御年貢之内年内取立之覚

一金七百三拾七両三分銀九匁八分三厘
半金納小役銀共ニ

内

五百拾九両貳分、丑之秋の同暮迄上納
金高の七分四毛

右之通拙者共組下、去丑御年貢金納之内年内取立如此相違無御

座候、以上

元禄十一年寅正月

御陣屋

前谷村

次郎左衛門 印

一丑十二月十九日、横田数右衛門様御状相届拝見申候

一当春御廻米例年之半分被仰付候由

一夫米訴訟御首尾能候由被仰聞候

同七日

一舟寄の直ニ金津へ御礼ニ参、御屋敷ニ而御雑煮・御酒被下候而宿
へ罷歸り候

同八日

同九日

同十日

同十一日

正月十二日

一本庄へ参候

同十三日

同十四日

同十五日

同十六日

同十七日

一 十楽村庄屋長百姓召連参候様ニと御陣屋より昨日御配符被遣候ニ付
召連候得ハ、壹本松茶屋共引越連ヶ浦へ参度由申ニ付、連ヶ浦庄
屋方より金津御郡所へ其段申上候付御陣屋へ御断ニ付、十楽村之者
共ニ御尋被遊候処、立退何方へ参候とても面々勝手ニ候へハ構無
御座候由申上候ニ付証文御取被遊候、則留書有

同十八日

一 壹本松茶屋共御陣屋へ被召寄、御吟味之上右之通面々勝手ニ而連
ヶ浦へ引越参候義申分出入無御座候由、証文御陣屋へ指上候趣、
則留書有

一 神田喜兵衛様・横田数右衛門様極月廿七日ニ首尾能御暇出申由、
与頭中方へ之連状拝見仕候、但喜兵衛様追而書ニ夫米願之事首尾
能由被仰越候

同十九日

一 飢食願状指上申候、留書有
一 丑年小遣帳仕立させ指上候様ニと被仰付候
一 一刁年宗旨改村寄ニ而寺別取指上候様ニと被仰付候
一 一村々火用心・盗人用心跡々之通堅仕候様ニと被仰付候、并清酒御
法度之由被仰付候
一 御廻米村々御割付写取申候、江戸御米納庄屋長田組・後山組、

三国立会兵庫組・布目組、上乘舟寄組・前谷組、但元□□艘参
候ハ、兵庫組と被仰付候

同廿日

一 当春米雜石町相場付書付、善右衛門・武兵衛・自分判形ニ而指上
候、留有

一 神田喜兵衛・横田数右衛門様・木内八九郎様・高嶋太次兵衛様へ
年始之書状沓通ツ、中間連状ニ而遣し候

一 右四人様・手嶋新之丞様・宮川五左衛門様へ自分書状、森平太左
衛門殿より同市左衛門殿・仲之進殿へ金子被遣候書状共、沓包ニ仕
五左衛門様へ遣し候状、牛首村五郎兵衛言伝申候

一 舟寄より罷歸り候

同廿一日

同廿二日

一 与下村々庄屋中呼候而申渡し候段々
一 御廻米村仕出しニ仕候哉、詔米仕候哉、二三日之内此方へ断可
有候、米拵・俵拵候事跡々之通堅申渡し候
一 火之用心・盗人用心・清酒之事証文取候
一 飢食願判形取申候
一 当春御ふしん所御改ニ藤四郎様近日御出被成候間、書付指上候
様ニと申渡し候

一神田政右衛門様酒屋御改ニ御こし被成候而、当村清左衛門造込候
酒・諸実共ニ御改之様子、澄酒四斗九升有、諸実十六入之桶四ツ、
内三ツ十分二有、壹ツハ半分過有、右何れも桶之尺寸・諸実之尺
寸御改被成候、空桶大小三十四やき印被成候、同大小桶三拾七二
御封被成候ニ付、拙者立合封印いたし候、右何も帳証文ニ而御取
被成候、自分立合仕候段奥判仕候而証文指上候、此外去丑極月十
五日迄当正月廿一日迄うり申酒御改被遊□□、代銀共ニ右証文ニ
載申候

喜 焼印判



桶底ニ張札ニ被成拙者立合印
いたし候

同廿三日

一政右衛門様御仕廻被成、今日布目村へ御こし被成夫々安嶋へ御越
可被成由、御「」ハ式人前谷清左衛門を出ス、式人笹岡、
壹人中川、壹人矢地を出申候

正月廿三日

覚

一米九拾四表

宮谷村

銀百七拾九匁九分七里 但壹石ニ銀五匁宛

一米四拾三表

高塚村

銀八拾貳匁三分

一米百四表

中川村

銀百九拾匁五分

一米五拾八表

田中村

銀百拾壹匁壹分

一米拾貳表

北野村

銀貳拾貳匁九分七厘

一米拾壹表

前谷村

銀貳拾壹匁六分

一米參拾八表

矢地村

銀百三拾匁壹分五厘

一米百拾四表

菅野村

銀貳百拾八匁壹分八厘

一米拾九表

北村

銀三拾六匁三分七厘

一米九拾貳表

青野木村

銀百七拾六匁八分

一米三拾貳表

清王村

銀六拾壹匁貳分五厘

一米五拾四表

十楽村

銀百三匁三分五厘

一米貳表

西方寺村

銀三匁八分三厘

一米六俵

谷畠村

銀拾六匁四分九厘

一米百拾九表

笹岡村

銀貳百貳拾七匁七分五厘

右村々俵数米拵繩俵等例年之通念を□、来ル二月廿五日ニハ御廻

米役人衆三国へ「一」間、其節無遲滞可致津出候、且亦御廻米入用銀前々ハ米壺石ニ銀三匁宛割集候得共、当年ハ米高減候付入用銀不足可申候間、此度者壺石ニ五匁宛之積り割出し候、右書付之通組頭二郎左衛門手前へ不滞可相集候、尤兩様共ニ延引有之候ハ、詮議之上急度可申付候、以上

正月廿一日

洪垂助左衛門印

右村々庄屋中

此書付米銀村下ニ印判いたし留り村へ可相返候、以上

右之通組下村々相触候条、石ニ五匁銀其方手前へ取集一所ニ可被指出候、尤米拵等念を入候様ニ可被申付候、以上

前谷村組頭

次郎左衛門殿

右御廻状此方迄被遣候ニ付、添状いたし村々へ遣し、谷畠村へ此方へ返し候様ニと申遣し候

一清左衛門酒御改ニ付、諸実桶ニ有之候尺寸証文帳ニ載候様ニと被仰付候処、又布目へ政右衛門様被仰越候ハ、諸実有石数之義ハ別紙証文御取可被成候間、諸色御改証文帳ニ諸実桶有之候分之尺寸書のせ申事無用之由被仰越候ニ付、其段清左衛門方へ申遣候

其方組下宮谷村儀大夫、当春も江戸納庄屋ニ指越可申由頃日江戸へ被仰越候、依之義大夫招呼右之趣申渡候、重而ハ前年相勤候者之内壺人相添参積りニ相見得候間、外ニ壺人参候者ハ物も書勘定等合点能者被致吟味願出候様ニ相談可被申候、以上

正月廿三日

洪垂助左衛門

前谷村二郎左衛門殿

宮谷村儀大夫ニ右之御手紙被遣候ニ付、支度仕候様ニ申付候一亥春御廻米入用指引帳壺冊、子春御廻米入用指引帳壺冊、以上帳式冊布目へ参候を請取、写取申候而早々後山へ遣し申候

正月廿四日

同廿五日

一藤四郎御普請所御見分ニ兵庫・布目筋へ御出ニ付、御普請所之義ニ付申上、御用共有之ニ付布目村へ参候

一金津大文字屋太郎右衛門方へ、三国江波与平借金有之ニ付年符仕くれ候様ニと願申ニ付、其段源介方へ申達候

同廿六日

同廿七日

同廿八日

同廿九日

一藤四郎様布目村へ御出被成候而、谷畠村川除置堤、高塚村新溜井・

十楽村伏樋、青野木村伏樋、宮谷村伏樋、菅野村落堀掘かへ、矢地村用水堤破損、笹岡村川除ニ付川ほりかへ御見分候而、前谷村ニ御泊り

二月朔日

一藤四郎様中川村川除・田中村川除御見分候而、後山村へ御こし被成候、則舟寄へ御帰り被遊候

同二日

一笹岡村清右衛門、同村七右衛門ニ貸米有之候処、元利共ニ相済不申候由断ニ参候

同三日

同四日

先達而相触候通造酒屋之分運上出候付、酒直段高直ニ成候故酒屋ニ而無之者手前ニ而酒造候由風聞有之候間、向後有来酒屋之外手前ニ而酒造間敷旨、面々御代官所へ急度可^(被)申付候、以上

正月十八日

(諸星忠直・勘定吟味役)
諸星伝左衛門

(荻原重秀・勘定奉行)
荻原近江守

(井戸良弘・勘定奉行)
井戸対馬守

(稻生正照・勘定奉行)
稻生下野守

(松平重良・勘定奉行)
松平美濃守

右之通酒手前造御法度之事御触出候間堅可相守候、此廻状披見之上村下ニ致印判順々相廻し、留り村の陣屋へ可指出者也

寅正月廿一日

(六倉・舟寄代官)
六 与兵衛印

坂井郡村々

右村々御廻状披見之上無遲滞相廻シ、留り村の早々可相返候、御廻状留置不申様ニ可被致候、以上

正月廿九日

洪垂助左衛門印

坂井郡与頭中

二月五日

同六日

一後山村勘太夫近日江戸へ参候付、夫米訴訟之義、与頭中連状ニ而高嶋喜兵衛様・宮川五左衛門様へ申上候、書状今日認申候

同七日

同八日

一当春普請所願上候村々庄屋中呼候而、願状悉敷分為書直申候

一清王村伏樋願上ケ候得共、無之候而不叶場所之様ニも相聞へ不申候間、先指置候様ニと藤四郎様被仰付候ニ付、其段庄屋中へ申渡し候

一高塚村市郎右衛門庄屋上ケ申度由願状指上申ニ付請取置候

同九日

一当御廻米詔米ニ仕候哉、村出しニ仕候哉、吟味仕書上ケ候様ニと
藤四郎様御廻状被遣候ニ付、後山村へ遣し申候

一壹本松茶屋共家を取罷立候ニ付、跡ニ罷有申度由願申者御座候ニ
付、指置可申候哉と十楽村七右衛門参候ニ付、吟味被仕慥成者ニ
候ハ、請人を証文を取指置申候様ニと申渡し候

二月十日

一舟寄へ参、前谷村新溜井仕度候間被仰付被下候様ニと願状藤四郎
様迄指上候へハ、御相談被遊可被下由ニ而願状指上置候、留書有
一谷畠村去年悪作ニ付百姓及飢申由度々訴罷出候付、其段申上候へ
ハ金貳両自分方へ御かし被遊候ニ付、自分一判之証文指上金子請
取候、留書有

一去暮森川村銀山人足扶持米代金貳両壹分銀壹匁八分、南部安右衛
門ニ相渡候金子、政右衛門様御返し可被成由被仰候処、政右衛
門様大野郡へ御越ニ付、八木忠兵衛右之金子請取、安右衛門手
形ニ自分金子請取手形相添相渡し申候、右之銀子指引無出入相済
申候

先達而相触候通、御廻米当月廿五日無遅滞津出したし候様
ニ急度可被申付候、当年ハ節早ク有之候間上方筋天氣能、存之
外船早ク可致着岸候、若船またせ置候ハ、各々可為越度候間兼
而其心得置候

二月九日

洪垂助左衛門 印
与頭中

右之廻状留り村々早々被相返候

右之御廻状布目参候、十一日ニ後山へ遣候

一谷畠村平兵衛百姓共飢申由訴ニ参候、并庄屋替り申度由申候

同十一日

渴人有之ニ付申渡ス義有之候間、明十二日ニ舟寄陣屋へ各可被
参候、以上

二月十一日

洪垂助左衛門 印

与頭中

一横垣村才兵衛・清王門兵衛、壹本松へ罷出茶屋仕度由願候而、地
主七右衛門ハ合点候へ共、庄や五十郎置申間敷と申由才兵衛断ニ
参候ニ付、右之才兵衛子細も無之者ニ候ハ、相談被指置候様ニと
はいふ遣し申候

一高塚村市郎右衛門庄屋上ケ申度由願申ニ付、長百姓・五人頭参候
而是非共市郎右衛門ニ庄屋被仰付可被下由申来り候

二月十二日

一前谷村武右衛門、与頭中為使能州滝右衛門様へ年始御礼ニ遣し候
ニ付、塩鴨式ツ布目村彦兵衛出申候、酒式升金津惣兵衛方々か
い申候、路金壹分自分出申候、覚兵衛ニとらせ申と、金壹分後

山茂右衛門をだし被申候、是ハ覺兵衛御いとま出申二付、右之金子とらせ不申候二付返り候故我等請取候

一舟寄被召寄、村々之内ニ而ひしと餓死ニおよひ可申者之分堅吟味仕書付指上可申候、其段江戸へ可被仰上候間早々帳面指上候様ニと被仰付候、次ニ御廻米当廿五日を晦日迄ニ米高を半分津出し仕候様ニと被仰付候

一矢地村四郎兵衛母・一門共勘当仕証文指上候、留有

一谷畠村おかし被遊候渴食金、庄や長百姓ニ相渡し証文取置候

同十三日

一権右衛門舟寄へ年始之御礼ニ参候

同十四日

一与中村々庄屋長百姓呼寄候而、御廻米高を半分村出し仕、当月廿五日を晦日迄之内ニ御米宿へ相納候様ニと被仰付候二付、其段証文取申候

一村飢人相改帳面二付、村々判形取申候

一十楽村久右衛門方を訴状上り候二付請取申候

一高塚村・谷畠村庄屋之儀吟味仕候

一御廻米之義何も与頭中寄合二付三国へ参候

二月十五日

一三国ニ而綿屋庄左衛門・小木武右衛門・河内屋二郎右衛門、与頭中立合下米、沓表之上打銀沓匁と相定候

同十六日

同十七日

同十八日

同十九日

一与下村々庄屋中呼寄、夫食願之帳面仕立判形取申候

一能州使武右衛門罷歸、滝右衛門様御返状参候付布目彦兵衛方へ遣し申候、我等茂右衛門へ渡し申候金子ハ返り候二付請取申候

一夫食願人数帳沓冊・飢食願帳沓冊権右衛門ニ持舟寄へ指上候

一笹岡清右衛門、七右衛門ニ貸金・貸米有之由申付くれ候様ニと最前を参候二付、村ニ而いづれも寄合埒明候而、不埒之事候ハ、庄屋召連参候様ニと申付候

同廿日

同廿一日

同廿二日

一当十九日ニ三田村六右衛門殿を、金津へ罷出候次手有之候ハ、立寄候様ニと被仰越候二付、六右衛門殿へ参候得ハ、去夏迄北金津ニ罷出候紺屋喜兵衛清王村ニ借宅仕罷有候由、行跡不宜者ニ候故金津へ為立入申間敷候旨金津中へ申付候、然ハ向後金津へ立入を

不申候様ニ彦右衛門様御意之由ニ候、とかく不宜者ニ候間清王村
ニ指置候事不入事之様ニ被仰聞候付、とかく吟味可仕由申上候

同廿三日

一 清王村市三郎当十四日ニ参候而、私貸屋へ金津こん屋喜兵衛と申
者当七月迄罷有度由申候、指置可申候哉と相断候ニ付、村ニ而庄
屋長百姓相談仕、構無之候ハ、重而断之上指置候様ニと申付候処、
六右衛門殿を右之御断ニ候故、清王村市三郎并庄屋長百姓共ニ様
子相尋候得ハ、金津ニ而不宜由承及候ニ付、清王村ニ指置候事成
間敷由庄屋長百姓申ニ付、右六右衛門殿御断之段申聞、清王村ニ
指置申間敷由証文為致取置申候

一 十楽村又右衛門方を最前書付指上候ニ付、十楽村庄屋長百姓立合
吟味之上、下ニ而埒明候様ニと長五郎ニ申聞候得共何角埒明不申
候ニ付、又右衛門書付取次候由長五郎ニ申聞候

同廿四日

一 十楽村久右衛門ニ、藤四郎様・仙右衛門様書状指添訴状共ニ為持
舟寄へ遣し候へハ、藤四郎様ハ大野郡川除御見分御出被成候由ニ
而仙右衛門様御返事被遣、久右衛門出入之儀も近日我等罷出候節
様子御聞可被成由、次ニ御廻米村出し之分ハ与頭共相改津出し仕
候様ニと被仰越候

同廿五日

一 三国御米宿被仰付為御用助左衛門様三国へ御出被成候由、津出し
御役人ニハ政右衛門様三国へ御出ニ付与頭中三国へ罷出候

一 造酒屋御改之証文帳ニ我等奥判仕指上申候、則右之帳証文是を布
目へ遣し候

同廿六日

一 於三国助左衛門様・政右衛門様御米御吟味被成候処、殊之外米や
わらかニ御座候付、色々御相談被成候得共堅米無之候故、天日ニ
干可申候哉と御相談ニ候得共、干候へハ大分減可申候、若其内廻
船も参候へハいか、ニ候間、石田と御相談被成江戸可被仰遣由ニ
而、何れ□与頭中を願状指上候ニ付、先御米下改を仕俵ニ仕候事
ハ延引仕候様ニと請負人其外村々へ申付候、右願状之留有

二月廿七日

一 助左衛門様今日舟寄へ御帰り被成候、政右衛門様ハ三国ニ御詰候

同廿八日

一 右三国ニ指上候御米願状之事ニ付御用候間、明廿九日ニ与頭中舟
寄へ参候様ニと仙右衛門様を御廻状被遣候
一 三国を罷帰候

同廿九日

一権右衛門舟寄へ遣し候、仙右衛門様御廻状も返シ候、廿七日ニ指上候願狀書□し申由留有、同口上書留有

一二月十六日宮川五左衛門様御狀被遣候、并森市左衛門殿・同仲之進殿御狀参候

同晦日

一十楽村久右衛門・長五郎出入御聞可被成由ニ而、右之者共召連舟寄へ参、長五郎申分段々仙右衛門様御聞被成、長五郎口書御取可被成候処、印判持参不申候ニ付前谷ニ而判形為取候而、来二日ニ十楽之者共ニ遣し可申被仰付候而帰候

一高塚村・田中村御ふしん急申度由申上候へハ、其段願狀為指上候様ニと被仰付候

一助左衛門様被仰候ハ、明日三国へ指番ニ而参候ハ、御米之義納可申と申者候ハ、本俵ニ為仕御請取候様ニと政右衛門様へ御伝言ニ候、扱河内屋方へハ当春上米・中米・くさり米三国ニ而うりかの相場聞合、書付指上候様ニと被仰付候

一矢地善右衛門・清兵衛ニ新屋方之年貢米早々相済候様ニと申付候

三月朔日

一右長五郎口書今日判形取候ニ付、封し候て明二日二十楽村の仙右衛門様へ指上候様ニと申付、長五郎ニ遣し申候

一三国へ詰番ニ而参候

一上関村次兵衛方の十郷用水奉行四人之切米取様のわけ、藤杭代米之わけ□か様ニ候哉といニ参候ニ付、覚申通申遣し□候

同二日

同三日

同四日

一笹岡村作太夫高六石式斗持式間三間之家壹軒、昨三日之夜自火焼候而類火も無之、人馬ニ相違無之由証文を以注進申ニ付、則小木仙右衛門様申上候、証文留有

一御廻米やわからニ而腐り可申も不定ニ候間、御三方請込衆今日三国へ御越被成御相談被成候、舟寄の助左衛門様御出被成候

一高塚村・田中村当春願上ケ候御普請、耕作前ニ仕度候由両村の願狀指上候ニ付、其段藤四郎様・仙右衛門様迄願狀を以申上候へハ、木屋方へ御目論見之材木早々相渡し候様ニと被仰付候故、右両村の木屋方へ証文相渡、材木早速相渡し可申由木屋方へ返事有之候、願狀之留有

同五日

一御三方御役人衆、同与頭共三国御蔵宿立合、丹生郡・今立郡・坂井郡・大野郡所々之米御吟味ニ候得共、他領之米ハ相違有間敷由ニ石田・鯖江御役人衆被仰付候、坂井郡之米ハ不定之旨申上候得

共、別々ニも被申上間敷旨ニ而、御三方ハ江戸へ御状被遣候内、坂井郡ハ別而米性悪敷やわらかニ有之由被仰上候、則当年納庄屋中番村利兵衛右之御状を持、来ル九日ニ江戸へ出立申答ニ候、然上ハ御米早々納候様ニと被仰付候

同六日

一右之通当年米やわらかニ有之ニ付、村出シ米ハ客別^(格)誂米之義舟積以前ニ米腐り候ハ、請負人ハ弁可申候哉、又百姓弁ニ可成候哉、吟吟^(味)仕候様ニと被仰付候ニ付、三国請負手前相尋候へハ、たとへ米請取不申候共相弁可申と申証文ハ成間敷由請負人申ニ付、何も相談之上、請負人証文仕事成間敷と申候も尤ニ候へハ、とかく請取三国蔵入候分ハ米主ニ無構為郡中相弁可然候哉と申上候
一十楽村庄屋長百姓被参候而、又右衛門・長五郎出入明七日ニ御聞可被成候間、双方めしつれ庄や長百姓舟寄へ参候様ニと仙右衛門様当六日ニ被仰付候得共、何とそ下ニ而嘸申度由申来り候ニ付、幸助左衛門様も三国ハ無御帰候故仙右衛門様へハ御断申上、其内扱相済候様ニと申遣候

三月七日

一助左衛門様三国ハ舟寄へ御帰被成候、次二十楽村茶屋早々相立候様ニと被仰付候、我等も三国ハ罷歸り候
一矢地御米六拾八表之内三拾八表河内屋、三拾表太兵衛

同八日

一笹岡村庄屋・五人頭、作太夫義御詫言ニ遣し候へハ御赦免被成、早々小屋かけ仕候様ニと被仰付候
(大宮茂富・福井藩金津奉行)
一大宮彦右衛門様御国絵図之儀ニ付近日江戸御立之由ニ候故、権右衛門御暇乞ニ福居遣し申候、何も与頭中被参候

一高嶋太次兵衛様ハ二月十三日之御状当四日ニ請取候、夫米訴訟之義御首尾能候得共、丹生郡訴状不参候ニ付、未不被仰上候由被仰越候ニ付相尋候へハ、石田下丹生郡之訴状書直シ頃日遣申候間、最前江戸相届可申由高木三左衛門様御申之由、大牧村豊左衛門申聞候

一大宮彦右衛門様江戸御供ニ中川村喜介御雇被成度由被仰越候ニ付、其段申聞候処外ハ御雇候ニ付喜介入不申候由、三田村六右衛門殿御手紙被遣候

同九日

一栗三才馬壺正 一同毛四才馬壺正
一黒毛四才馬壺正 一河原毛四才馬壺正
一鹿毛五才馬壺正 一同駿四才馬壺正
一六疋西方寺村市郎右衛門板取口通手形出ス
一十楽村又右衛門・長五郎出入扱ニ而相済候、庄屋長百姓断ニ付扱済証文取申候、御陣屋へ指上留□□

一 中川村喜介、(大宮茂富・福井藩金津奉行)彦右衛門様を御やとひニ付江「」参筈仕候由断申候

一 中番村利兵衛御三方之手本米持江「」参候付、今日出立之由

同十日

一 御廻米村出之分今日迄洗と不相納、近々船も可致着岸候、早々相納申様ニ与下村々へ急度可被申渡候、被致油断間敷候、以上

三月九日

神田政右衛門 印

与頭中

右之御廻状後山を参、是を可返筈

一 中川・宮谷・青野木・高塚此四ヶ村を、村出之御米有之二付米拵ハ仕置候得共、津出し之義御指延被下候様ニと訴訟ニ候

三月十一日

同十二日

一本庄春日之富札百五拾枚預り申候

同十三日

同十四日

(大宮茂富・福井藩金津奉行)

一 彦右衛門様近日御立之由ニ候故、六右衛門殿・弥兵衛殿御見廻ニ参、それる三国へ参候

一 三国ニ而仙右衛門様へ、十楽村又右衛門・長五郎出入下ニ而相済

候ニ付、双方并扱人之証文指上、又右衛門方を指上候訴状申請候、証文留有

同十五日

一 夫食願之義ニ付村々餓死相改書付御陣屋へ罷出申上候而可然由、善右衛門方を書状被廻候を三国ニ而見申候

同十六日

一 高嶋太次兵衛様・宮川五左衛門様へ二月六日ニ仲ヶ間連状進上いたし候処、夫米願之事首尾能候由御返事被遣候ニ付、後山へ遣し候

同十七日

一 右善右方方を書状後山□遣し候、三国を今日罷歸り候

三月十七日

一 石田御役人川崎甚平様を、大牧村豊左衛門を以こん屋喜兵衛清王村ニ住宅仕罷有申度由願申由ニ候間、何とぞ指置くれ候様ニと被仰越候故、三田村六右衛門殿を段々御断之子細共不残豊左衛門ニ物語いたし、右之様子ニ候へハ其儘指置申事難成候、自分方ニハ少もかまひ無御座候由委敷申述候而、扨右之段々甚平様を被仰越候事仙右衛門様へ申上候得ハ、甚平方を何様ニ被申候共指置候事

ハ成間敷由被仰付候

同十八日

同十九日

一与下村々ニ飢人多出来候間、最前願上候夫食・飢食之義何とぞ被仰上被下候様ニと申、権右衛門御陣屋へ遣し申候

一福居木屋太郎兵衛方の大工を当十六日村々へ遣し、去年之樋共伏させ申由ニ而、今日北村之樋を伏候而大工後山へ参候

一田中村御普請所入用竹五寸廻百四拾八本、式三寸廻式百五拾六本、五寸廻百本ニ付三拾五匁、式三寸廻八百本ニ付七匁程かい申度候間、此方ニ而買調くれ候様ニと木屋太郎兵衛被申越候ニ付、右両色共かい可申由返事遣申候

一清王村庄屋中・同市三郎呼寄候而、右申付候こん屋喜兵衛義住宅いたさせ申事無用之由かたく申渡候

同廿日

同廿一日

同廿二日

一高塚村入樋、田中村普請杭木、早々指越^(候)様ニと田中村人足ニ而福居木屋太郎兵衛「」申遣し候、并田中村箒竹・蛇籠竹「」此方買調くれ候様ニと木屋方「」被申越候ニ付、買調申由申遣し候得□代銀越候ニ付請取申候

一明廿三日ニ御用候間、舟寄御陣屋迄参候様ニと助左衛門様御廻状被遣候、并善右衛門方添状ニ而村飢食之義ニ付被召寄候、然共助左衛門様今日三国へ御越被成候間三国罷出可然由被申越候、其書状共布目被参候付後山へ遣し申候、大水出申ニ付廿三日ニ三国迄参事成間敷候間、廿四日ニ三国へ可参由後山へ申遣し候

同廿三日

一助左衛門様御廻米御用ニ付三国へ御越被成候ニ付、何れも与頭中三国被参候、我等義ハ今日三国へ不参候、御用之義ハ夫食無御座渴命及申者共帳面当春指上置候处、今又御尋ニ付書付指上申候、留書有

一坂井郡之内ニ而忠孝・毒藥之高札有之候村々御改ニ付書付指上候、留書有

廿四日

一三国へ参候而右之段々承候、今日三国詰番ニ而罷有候

同廿五日

同廿六日

同廿七日

同廿八日

同廿九日

四月朔日

一 今日廻船老艘初而三国へ参候

一 後山善兵衛と代り申候

同二日

同三日

一 三国を罷歸り候

四月三日

一 澄酒四拾石九斗四升 清左衛門造酒御改

此代銀三貫貳百七拾五匁貳分 惣酒 但酒壹升ニ付八分ツ、

内

壹貫六百三拾七匁六分 五わり運上銀

内五百四拾五匁八分七厘四月十五日切

右之通庄屋市兵衛・酒屋清左衛門ニ申付候

一 当御廻米津出シ之義最前申触候処、三国へしかくと出シ不申候由、彼地改役人を申来り候、御廻米積舟昨日三国江入津候間御米早速津出し可有之候、此上油断之村々ハ詮義之上急度可申付候、且又壹石五匁割銀早速相納可申候、勿論与頭切ニ取集是又早々持参可有候、為其如此二候、以上

四月二日

洪垂助左衛門印

村々

右之御廻状村々へ直ニ被遣候

同四日

一 西村常照寺富札為与中と三拾枚かい申候、此代七百貳拾文代錢遣し不申候、明五日札披申由断ニ付如此候

同五日

一 月毛三才馬壹疋、髪切、十楽村五十郎加州へ払参候由ニ而細呂木江手形出候

一 市野々村仁右衛門加賀山ニ而買置候杪式三百、矢地村之者盜候間内証ニ而せんき仕くれ候様ニと申付、慥成証拠も無之候へハ自分おせんきハ成かたく候間、其方お矢地へ参せんき仕候様ニと申渡し候

同六日

一 舟寄参仙右衛門様へ申上候ハ、田中村御ふしん所当□藤四郎様御見分之以後六七度之大水ニ川□大分ニ罷成候、其ま、指置水かこい切申「一」田地大分損可申候、御帳面未上り不申候ハ、□□論見直シ候而、御ふしん被仰付被下候様ニと□^申上候へハ、水かこい大破ニ成ふしん不仕候而不叶所相改、書付指上候様ニと被仰付候ニ付、田中村へ参ふしん所見分仕、絵図ニ記重而又願状認させ、明七日ニ八兵衛舟寄へ持参仕候様ニと申付候、留書有

一谷畠村御ふしん所大方仕候間、御ふち米代銀御かし被下候様にと
庄屋長百姓参訴候二付、其段仙右衛門様へ申上候へハ、御扶持米
代金貳両銀八匁九分六厘、人足五百八拾九人之御ふち米貳石九斗
四升五合之代金、私請取候而仮手形御陣屋へ指上申候、留書有

右之仮手形八月十四日ニ御返し消申候

一 中番村利兵衛手本米持江戸へ参着、御吟味之上から舟着岸次
第二御米積候様ニ被仰下候間、村々無油断津出し致候様ニ可
被申付候、且又石ニ五匁銀も段々入用ニ候間、無遅滞取集近々
可被指出候、以上

四月六日

洪垂助左衛門 印

組頭中

留り村の此廻状可被相返候

右之御廻状布目村の参候二付後山へ遣し候

四月七日

一御廻米津出早々可仕由、先割銀半分ハ当日、半分ハ十五日切ニ
相済可申、中川・宮谷・青野木・高塚村出し御米之分、十日・十
一日両日之内ニ出し申候様にと村々へはいふ遣し候

一 村出し之御米、十日・十一日ニ出させ可申由政右衛門様へ申上候
へハ、早々出させ申様にと被仰越候

一 田中村御ふしん所願之事、仙右衛門様へ申上候へハ願之通御ふし
ん被仰付可被下由ニ候

一 市野々村仁右衛門、矢地へ参せんき仕候得共埒明不申候由断ニ参
候二付、矢地村彦介召連庄屋長百姓明九日ニ参候様にと申遣候

同八日

一 笹岡村久兵衛、五左衛門持高田地割合ニ候処、五左衛門方へ取込
候間吟味仕くれ候様にと訴申二付、覚書を取五左衛門を呼寄様吟
味仕候処、田地取込曾而無之由申候、久兵衛申口覚書有

一 市野々村仁右衛門被盜候抄之義ニ付、矢地村庄屋長百姓呼寄吟味
仕候得共二慥ニ知申義無之候二付、矢地村ニ而抄を吟味仕候様ニ
と申渡し候へハ、双方和談仕相済申由断有之ニ付、証文を双方一
紙ニ而取置申候

四月九日

一 御廻米御用二付三国へ参候、則谷畠村へ立寄候而御ふしんふち代
銀相渡し申候

同十日

同十一日

同十二日

同十三日

同十四日

同十五日

一御廻米石五匁銀之義、最前も相触候得共于今少^(も脱)指出シ不申候段、

入用有之候間取集早々可被指出候、且又御廻米詔下米并詔代銀共
ニ然々請取人共方へ不相濟候間、米出来兼候由三国詰役人衆を申
来^(候)□、此方当り前之船も式艘共ニ請取改相濟候間、江戸を御下知
次第積立可申候間、油断なく米出来候様ニ可被申付候、以上

四月十四日

洪垂助左衛門 印

与頭中

右御廻状十五日之夜參候ニ付、十六日之夜後山へ遣し申候

一三国を今日罷歸り候

同十六日

一江戸へ指上候飛脚今七ツ時舟寄迄歸着申候処、御廻米之義空船着
岸次第早々積廻シ候様ニ御下知ニ候間、村々津出し急□相仕廻候
様ニ可被申付候、米之義随分急□可申旨被仰遣候間可被得其意候、
無「一候得共、此方当り前之船請取候間「一延引成間敷
候条、左様ニ可被相心得□□断有間敷候、以上

四月十五日

洪垂助左衛門 印

与頭中

布目村を村次ニ參候ニ付後山へ早々遣し候

一御廻米之義ニ付申談御用有之候間、此書付參着次第第二三国河内
屋方迄可被參候、急用ニ候条左様ニ相心得可被申候、以上

四月十六日

小木仙右衛門 印

前谷村
二郎左衛門殿

右之通ニ候故三国へ參候得ハ、廻船式艘共御請取被成候得共、御
米納不足有之ニ付村々□吟味仕候処、村出し之分不殘相濟詔米滞
申ニ付吟味仕候へハ、村々を代銀滞申ニ付御米早々ニ入申事成兼
候由申ニ付、何も相談之上彦兵衛・武兵衛・源左衛門舟寄へ參御
陣屋へ可申上由相談仕候

四月十七日

一右三人之与頭中御陣屋へ參右之段々申上候得ハ、助左衛門様三国
へ御越被遊御詰番仙右衛門様と御相談被成候而、金百両当分御か
し被成候付、当郡与頭六人預り手形指上候而、右百両之金子請負
人手前相改、村々を不足金高二応シ割渡しかし申候、金子拾七両
麦屋太兵衛・出村甚左衛門、五拾両綿屋庄左衛門・福井武右衛門、
三拾三両河内屋二郎右衛門、右之通相渡し何れも手形取置申候

同十八日

一三国詰番ニ而罷有候

同十九日

同廿日

同廿一日

同廿二日

一備前^(日カ)□比浦安左衛門舟ニ御米積立申候、上乘中筋村忠左衛門
一石五匁銀不残仙右衛門様へ指上手形有

同廿三日

一後山村甚兵衛三国詰番

一廿日ニ木内孫二郎様江戸御越ニ而舟寄へ御着之由

一御用之儀有之候間明廿四日ニ早々舟寄陣屋へ可被参候、尤三国
詰之者ハ不及参候、此状留り持参可有之候、以上

四月廿三日

与頭中

洪垂助左衛門 印

同廿四日

一右之通御廻状ニ候得共、我等儀三国ニ罷有其上氣分悪敷候ニ付、
御断を申上舟寄へ不参候得ハ、夫食・飢食之訴訟相叶候而少御貸
被為成候ニ付、惣金御割渡り可被成之処、御陣屋ニ御金無之候ニ
付、先当分有合申分御渡し可被成由、金拾匁兩三分後山茂右衛門
ニ御言伝候而被遣候、茂右衛門方右之金子請取申候

四月廿五日

同廿六日

一每度申付候通火之用心入念を可申候、此節取分風つよく候間、
随分百姓・水吞等迄ニ夜番之者昼夜ニ不限無油断可申断候、不

足ニ而出火候ハ、吟味之上火本之者并夜番共ニ急度曲事ニ可申
付候、此廻状披見之上村下ニ庄屋印判致、留り村可返候、以
上

四月廿五日

村々

洪垂助左衛門 印

同廿七日

一木内孫二郎様森川舟寄へ御こし被成候由承^(候)□ニ付、舟寄へ参候
へ共御帰リニ而不得御意候

一夫食・飢食我等与下へ御かし金之内拾匁兩三分、廿四日ニ後山茂
右衛門ニ御言伝候而、被^(遣カ)□節茂右衛門返り手形御陣屋へ被指上候
を、手形之面今日又金拾四匁分御渡し候ニ付、式口式拾六匁
分我等預り手形指上、茂右衛門手形我等方へ請取申候

一三国舟寄へ参宿罷帰リ候

同廿八日

同廿九日

五月朔日

一村々庄屋中呼寄候而御貸金割符いたし相渡し、則返り預り証文帳
ニ判□取置申候

同二日

同三日

一 夫米訴訟之義ニ付石田方与頭中三国へ罷出、何も対談之上相談仕
 筈ニ候間、早々三国へ罷出候様ニと兵庫武兵衛へ被申越候ニ付、
 三国麦屋太兵衛方迄参候

同四日

一 石田方与頭中江戸へ御訴訟ニ可参候由被申ニ付、舟寄方与頭中も
 右之趣御陣屋へ申上、江戸参度由御訴訟可申上由ニ而、何も相談
 之上書付認置候、然処昨三日ニ東長田源左衛門御陣屋へ参候得ハ、
 江戸へ御陣屋迄被仰越候ハ、夫米之義江戸ニ而段々首尾能候ニ付
 御上へ達而可被仰上由ニ而、訴訟之品々(古郡年明・鯖江代官)古郡文右衛門様へ御相談
 被成候へハ、右□文右衛門様御同道無之ニ付支申由被仰越候間、
 いか、可仕候哉相談仕候様ニと御陣やへ被仰越候ニ付、又何れも
 寄合相談申候ハ、とかく石田・舟寄共ニ当七日ニ面々御陣屋へ参、
 御窺申上江戸へ参度候と奉願由相談相極申候
 一 神田喜兵衛様へ与頭中へ連状被遣候義ハ、御廻米御用ニ神田政右
 衛門様三国へ御出可有候間、内外不届無之候様異見仕候様ニと被
 仰越候

同五日

同六日

一 三国へ罷歸り候

同七日

一 夫米御訴訟之義ニ付何れ与頭中舟寄へ参候而御陣屋ニ而御相談を
 請、布目村彦兵衛石田へ参候而御相談申上候

同八日

一 彦兵衛石田へ罷歸御相談之義ハ、只今与頭□江戸へ参候共、古郡
 文右衛門御同心無之故ハ、卒爾ニ御訴訟相叶可申共不思候ニ付、
 当分江戸へ参事延引仕、其内文右衛門様御所かへも被遊候得ハ、
 其跡ハ如何様共御訴訟可成事、若何之御替りも無之(候ハ)□□秋中此
 方へ御三方様共御越之節、鯖江御下之与頭中と相談仕一所ニ可申
 上候間、先当分御訴訟之事御延引被遊被下候様ニと、助左衛門様
 へ江戸御内意被仰上被下候様ニと申上候
 一 飢食御貸金自分与下へ四拾九両壹分銀三匁式分三厘之内、式拾六
 両壹分四月廿七日請取申し、残而拾両式分ハ三国御廻米代金御扣
 百両金之内ニ而可請取筈、拾式両式分銀三匁式分三厘ハ与下村々
 未進金之内取立相渡し候様ニと被仰付、村々へ小手形被遣候ニ付、
 右式口之金請取手形式枚ニいたし指上候、委細留別紙有
 一金三兩壹分、去亥暮へ只今迄舟寄諸遣仮割自分与下へ割当り、此
 外金壹両先割可仕之筈ニ候
 一 寅年用水・伏樋・川除御普請御目論見帳写取申候

五月九日

一 舟寄御用仕廻候ニ付金津へ直ニ参候而、(大宮茂富・福井藩金津奉行)彦右衛門様江戸御立之御悦申上罷歸り候

同十日

一 銀九分 笹岡村 一 銀八分五厘 北村

一 銀七分五厘 中川村 一 銀壹匁六分 菅野

一 銀三匁貳分 轟木村 一 銀貳匁三分五厘 宮谷

一 銀貳匁七分 青野木 一 拾貳匁三分五厘

右ハ丑年古樋入札代銀御取立ニ付持参仕候様申触候

一 去未進金之内取立御貸金ニ可相渡分、御手形之通早々取立持参申様ニと申触候

一 御廻米壹石二五匁銀、惣合金貳拾六匁壹分銀九匁七分五厘、仙右

衛門様指上御手形取置候を、武右衛門ニ為持舟寄ニ遣し候て、助

左衛門様御手形と引かへ申し候、壹村切之御手形ニ候

同十一日

同十二日

一 森川村へ木内孫次郎様・高嶋藤四郎様御見廻ニ参候、御両人様へ御目ニ懸り森川村次右衛門方ニ泊り罷有候、仲ヶ間六人壹所ニ罷「」善右衛門是を罷歸り候

同十三日

一 大野三宅藤左衛門様へ御見廻申上御目ニ懸り候、屋敷ハ壹番町北之頭、壹番町七軒町八百屋四郎右衛門方ニ泊り候

同十四日

一 福井吉兵衛方ニ泊り候

同十五日

一 仲ヶ間五人共ニ舟乗り三国へ参、百両金之吟味いたし取立申候

同十六日

同十七日

同十八日

同十九日

一 三国を罷歸り申候

一 宮谷村義太夫当御廻米納庄やニ参候付、請判并組中証文判形取申候

同廿日

一 右義太夫今日出立仕下通江戸へ参候ニ付、高嶋太次兵衛様・宮川五左衛門様連状壹通、神田喜兵衛様・横田数右衛門様・森市左衛門様・日下部仲之進様・藤井次兵衛様・仙玉老・中番利兵衛方へ

書状壺通つ、言伝申候

一 右義太夫請証文昨日判形相済不申候二付、昨日御断申上今日清王村を為持遣し候、清王村庄や長百姓右判形二遅参候二付呼寄吟味いたし候

一 御廻米五匁銀之御手形村々相渡し申候

同廿一日

一 右義太夫請証文御請取被成候由、仙右衛門様を御返事被遣候

同廿二日

一去丑之御年貢金方納下り并地扨代金早々取立可相納候、委細ハ取「一」役人中を可被申付候間、無油断□□納候様二惣百姓へ可申渡候、為其如此□^(候)、御廻状村々披見之上村下二庄屋印判いたし、留り此方へ可相返候、以上

五月廿日

洪垂助左衛門 印

村々 後山与
前谷与

右之通申触候間無油断相納候様二可被申付候

後山村与頭 茂 右衛門 殿
前谷村与頭 二郎左衛門 殿

一 谷畠村田地半分程植付候処当十八日大水出申候、殊苗代水入二成候而今朝苗之先少出候二付様子申候得ハ、苗之色替り、取候へハちきり申二付、残田うへ付申義難成と断二庄や長百姓参候二付、

とかく苗を才覚いたし何とぞ植付申様二と申付候、御陣屋へも申上度と申二付、仙右衛門様・政右衛門様へ右之通口上書指添、平兵衛遣し申候

一 三国百両金之内後山・前谷両組へ金子貳拾五両と、善兵衛預り手形・自分預り手形三両貳分、メ貳拾八両貳分、布目彦兵衛を為持被指越候二付、後山当り分拾四両壹分之内善兵衛預り貳両、現金拾貳両壹分請取、現金・預り共二権右衛門二為持後山へ遣し申候、自分当り拾両貳分之内預り手形壹両貳分・現金九両請取、余り金三両三分と福井武右衛門・庄右衛門并かわちや并太兵衛・甚左衛門三枚手形之上、金百両之手形彦兵衛方へ遣し候、并二御かし金現金請取御年貢金二□合、又百両金二而割取可申帳面彦兵衛方へ遣し申候

五月廿三日

同廿四日

同廿五日

一 当月十八日之洪水ニ、北野村水囲堤切田地入申由願状指上候二付、手紙を指添候て御陣屋へ遣し申候、北野村を指上候願状□留有

覚

一 当座遣捨候諸色、金銀之箔用へ候義停止之事^(之)

附、金銀之水引停止之事

但末広扇・能扇・舞扇ハ各別、献上之外常之扇団・たはこ入・た

とう紙之類遣捨ニ心得、本文之通可相守事

一菓子入・盃台金銀之箔停止之事

一童子之持遊び物遣捨候類、金銀之箔停止之事

但ひな・同道具・はりこ類ハ前々之通ニ而不苦候、其内結構無

之様ニ可仕候、其外之持遊び物ハ本文之通可相心得事

一諸道具金銀・梨地・粉たび・蒔絵之類、向後結構無之様ニ可仕事

一諸道具金物之類金銀猥ニ遣候義可為無用事

右之趣相守候之惣而無益儀ニ金銀用申間敷候事

但右品々之内、只今迄仕入置候物ハ当年中ハ御用捨候間、新規ニ

仕立候分右之通可相心得候事

寅三月

右之通御書付出候間写遣候、被得其意を御代官所中へ可被申触候、
以上

四月廿一日

(諸星忠直・勘定吟味役)
諸星伝左衛門

(松平重良・勘定奉行)
松平美濃守

(萩原重秀・勘定奉行)
萩原近江守

(井戸良弘・勘定奉行)
井戸対馬守

(稻生正照・勘定奉行)
稻生下野守

右之趣被仰出候間堅相守可申候、以上

寅五月

(穴倉・舟寄代官)
穴倉与兵衛印

坂井郡

村々

右御廻状披見之上村下ニ致印判無遅滞相廻し、留り村々早々可相

返候、以上

五月三日

渋谷助左衛門印

坂井郡

右村

組頭中

五月廿六日

一何角用之事有之ニ付布目へ参候

同廿七日

一兵庫武兵衛・布目彦兵衛寄合候而、御貸金証文指上申節、壺与
庄屋共式三人めしつれ罷出、御陣屋へ御礼可申上由申合候

一丸岡領里丸村地内ニ煩女罷有、丸岡目付中様子相尋被申候得ハ、

笹岡村長兵衛と申者之従兄弟之由申候旨ニ而、舟寄へ御付届有之

ニ付、其段被仰越候故笹岡村庄屋長百姓呼寄吟味仕候处、笹岡村

ニ長兵衛と申者無之候故舟寄へ庄屋宗左衛門参其段申上候へハ、

則丸岡領与頭壺本田村孫兵衛方へ御手紙御添宗左衛門被遣、右女

を御見せ候得共見知り不申、長兵衛と申者も無之由丸岡御役人御

断申上罷帰、御陣屋丸岡ニ而之段々申上候へハ、宗左衛門ニ口書

被仰付惣左衛門罷帰り候

同廿八日

同廿九日

同晦日

六月朔日

同二日

一村々庄屋中呼寄御取立之義申渡し、其上御貸金相渡し本証文判形取申候

同三日

一夫食御貸金証文帳御陣屋へ指上申候、則御貸金之御札旁々ニ、壹与ゝ惣代として庄屋式三人ツ、めしつれ罷出候ニ付、矢地助右衛門・菅野八左衛門召連参御札申上候、惣遣金高割ニいたし壹両三分出し申候、此外ニ壹分小者共ニ出ス、右御かり金三度に請取候、仮り手形と引かへ消申候

同四日

一御未進金早々指上させ候様ニとかたく被仰付候故、金わり日付仕村々配符出し候、舟寄ゝ帰

一金三両内 壹両貳分六月六日 北野村

一金四両内 貳両 北村

一金拾七両内 八両 中川村

一金九両内 四両 田中村

一金貳拾壹両内 拾壹両 笹岡村

一金拾三両内 六両 矢地村

一金拾九両 九両 菅野村

一金拾四両三分内 七両三分 宮谷村

一金拾六両内 八両 青野木村

一金三分 六月十二日切 西方寺村

一金九両内 四両 十楽村

一金五両内 三両 清王村

一金九両内 四両 高塚村

一金四両壹分内 貳両壹分 谷畠村

一金貳両内 壹両 前谷村

右之割付配符出し申候

一鹿毛三才馬壹疋、かミ切、清王村馬主弥三兵衛

板取口通切手下手形出し候

同五日

同六日

一黒毛三才馬壹疋、髪切、青野木村彦兵衛

板取口通り手形出申候

一矢地村おさく持高里村ニ相渡し里村支配ニいたさせ候由、おさく・里村兩人断ニ参候付、其通七郎右衛門・善兵衛方へ配符ニ而申遣し候、若おさく持高里村ニ相渡し申ニ付面々構之義有之候ハ、早々此方へ断被申様ニと申遣し候

一丑年納下り金早々相済候様にと、与下村々助右衛門様を御廻状被
遣候二付、即刻二村々へ遣し可申候、其御廻状谷畠村を返し申様
二申遣し候

六月七日

同八日

同九日

同十日

同十一日

一昨十日二西方寺村太左衛門妻子さかさま川へ落入相果申由断申二
付、段々吟味仕口書を取御陣屋へ指上申候、留書有

同十二日

一右之通御陣屋へ申上候へハ、段々口書指上候上ハ子細無之由、仙
右衛門様を御返事被遣候

同十三日

一矢地村七郎右衛門・善兵衛方々、おさく高之上霊順分高之上田畑
境目論之所々御座候処、只今おさく高霊順高も預ケ申由二候へハ、
境目相究申度由断二付、助右衛門并長百姓五人立合、依怙無臆
境目相立申様二とはいふ遣し申候

一月毛三才

かミ切

十楽村
五十郎

一栗毛三才

同

同

一青毛六才

同

同

一河原毛三才

同

同

一黒毛三才

同

同

一黒毛六才

同

同

一月毛三才

同

同

一栗毛六才

小荷駄

同

一黒毛五才

同

同

一足毛大尺七才

同

同

一黒毛七才

同

同

メ拾壹疋内^{七疋}
四疋^{かミ切}
小荷駄

右ハ板取口下手形出し申候

同十四日

一清王村九右衛門、今夜明方二出火二而焼失候由長百姓共断二参候
処、相改申候得共自火二而人馬相違無之、類火も無之候二付、証
文を取御陣屋申上候へハ、九右衛門義ハ七日寺入被仰付、焼跡ハ
勝手次第、小屋掛二而も仕候様二と仙右衛門様を御返事被遣候、
証文留有

同十五日

同十六日

一足毛六才馬 矢地村吉兵衛

一黒毛六才馬 同人

一足毛六才馬 同人

一月毛星額六才馬 同人

一同斷 四才馬 同人

一河原毛大尺五才馬 同人

ノ六疋 小荷駄

右板取口下手形出し申候

一黒毛五才 西方寺村一郎右衛門

一黒毛四才式疋 同人

一鹿毛四才式疋 同人

ノ五疋 小荷駄

右板取口下手形出し申候

同十七日

一十楽村壺本松二宗石同権四郎と申者住宅仕候由断ニ参候

一与下村々庄屋長百姓不殘寄合、御未進金之義并夏かりわり相済候

同十八日

一舟寄へ御見廻参候、早々罷歸り候

同十九日

同廿日

一穴倉与兵衛様備後福山水野美作守様御上り知御代官被仰付候由、
(水野勝種)

御陣屋を被仰渡候、就夫御取立之義段々被仰渡候

一右之儀ニ付宮川五左衛門様・宮谷義太夫方方書状参候、六月八日
之日付二而、則五左衛門様を清間村長右衛門・矢地武兵衛ニ御伝
書有之二付武兵衛委細申聞候

一筆申遣候、今度旦那御義備後福山江御使御用被仰候付難有被
存段可被察之候、然処越前御代官所之分者他へ御渡し被成筈ニ
仰渡有之、三四年支配被致各ヲ初百姓惣中へ殘多由被申候、此
段我等共方を呉々可申遣由被申付候条如是、猶期後音之時候、
恐々謹言

六月

宮川五左衛門 判

高嶋太次兵衛 判

坂井郡組頭

銘々殿

大野郡組頭

銘々殿

右之通御連状被遣拝見仕候

六月廿二日

一刁二月十日ニ谷畠村へ金貳両夫食ニ御陣屋を御貸被成候金子、返
納仕候ニ付証文取返し消申候

一今度御代官様御替り之義与下村々へ申渡し候、次ニ殘金之義当月
中ニ不殘上納可仕候、若当月中相済不申候村々ハ、来朔日ニ何れ

も呼寄籠舎可被仰付由二候

同廿三日

一自用二付加州へ参候

同廿四日

一去丑御年貢納下り金頃日与頭方を申渡候通、明廿五日請合之金
辻無不足相納可申候、若滞候ハ、庄や長百姓急度越度ニ可申付
候間、少も遅々油断有間敷候、此廻状披見之上村下ニ致印判村
次早々相廻シ、留り村を此方へ持参可申候、以上

六月廿四日

小木仙右衛門 印

村々

右之御廻状ニ添配符いたし村々へ遣し申（候）、并此方へも御手紙被遣
候

同廿五日

一去丑春御廻米雜用金請払目錄認方廻シ候、組々ニ写置候而金子
早々取立可指出候、此節之事ニ候間油断有間敷候、此書付右目
録ニ相添順々相廻シ留りを可被相返候、以上

六月廿二日

洪垂助左衛門 印

坂井郡与頭中

右目錄壹通御廻状共ニ布目を参候を写シ取、後山へ遣し申候

一舟寄へ御見廻ニ参早々罷歸り候

六月廿六日

一態申入候、然ハ亥春を丑春迄御廻米入用銀指引之儀ニ付御用之
事候間、今日（之）□内ニ庄屋中此方へ御出可有候、爰元御代官替
りニ而御急用之事ニ候間、早々御越可有候、以上

六月廿六日

土屋二郎左衛門 印

山室村吉右衛門殿

新用村弥五兵衛殿

馬場村庄右衛門殿

東善寺村十右衛門殿

轟木村彦兵衛殿

下関村与三兵衛殿
利兵衛殿

此配符右村次ニ而早々先々へ相届、下関村を此方へ返し可被申候、
以上

一亥春（迄）丑春を御廻米入用銀指引帳面仕立候而、不足銀斗書付来三
日ニ不足銀相済申様ニと与下村々へはいふ遣し申候

一村々庄屋長百姓御陣屋迄参候様ニと御廻状仙右衛門様を被遣、何
も参候得ハ、御未進金弥以当廿九日切ニ相済候様ニと堅被仰付、
承届何れも罷歸り候

一木内孫次郎様へ、江戸へ御歸りニ付為中間と御暇乞ニ書状遣候へ

ハ、御返事参候ニ付後山へ遣し申候

同廿七日

一自用ニ三国へ参候

一紀州様渡六ヶ村へ、御廻米入用銀指引不足早々相済被申候様ニと申渡し候

六月廿八日

一三国を罷歸り候

同廿九日

一御取立之義ニ付舟寄へ参候而、村々庄屋長百姓呼寄御金之吟味仕、来六日切請合立申候

一丑之御年貢皆済老村切ニ式通ツ、書立申様ニと被仰付候

七月朔日

一右御年貢之義舟寄ニ罷有候

同二日

一舟寄を罷歸り候

同三日

一仙右衛門様を御廻状被遣候ニ付、添書いたし村々へ遣し申候

同四日

一菅野・宮谷・青野木・西方寺・十楽・清王・高塚村へ御年貢之義ニ付権右衛門遣し申候

一矢地・笹岡ハ呼寄委細申渡し候

一金四両 かし主菅野弥右衛門、かり主久右衛門

此質高拾石、刁十月切、利足壹わり

一金五両 かし主金津弥次右衛門、かり主^{八左衛門}甚左衛門^{半右衛門}

此質高拾石、十月切、壹わり

一金三両 かし主右同人かり主^{清右衛門}久右衛門^{十右衛門}弥五右衛門

此質金高七石五斗、十月切、壹わり

右三枚之証文奥判自分いたし候

一金貳両銀拾匁貳分、菅野村を諸色銀之内ニ請取

同五日

一明六日与下村々庄屋長百姓舟寄へ参候様ニと仙右衛門様を御廻状被遣候ニ付、村々へ早々遣し申候

同六日

一御年貢之義ニ付村々庄屋長百姓舟寄へ召連参候処、矢地・笹岡・高塚三ヶ村大分殘金ニ而庄屋長百姓牢舎可被仰付候処、色々御断

申□□、九日迄御指延被下候二付、五人頭之内耆人ツ、宿預り被遊候、宮谷・青野木・十楽・清王・菅野此四ヶ村十日切殘金請合二候へ共、百姓耆人ツ、宿預ケニ成候、谷畠村も右同斷二候

一金貳両、高塚村の諸色銀二舟寄ニ而請取候

一金壹兩銀七匁八厘、谷畠村の諸色銀舟寄ニ而請取相済申候

一金壹分、中川半兵衛舟寄ニ而かし

一銀貳匁九分五厘、西方寺村十右衛門二舟寄ニ而かし

一金七兩、笹岡宗左衛門の去暮かし金ニ請取取り手形相渡し申候

同七日

一金津惣兵衛方、矢地武兵衛二丑六月二御高拾耆石山三ヶ所質物

二取、米四石六斗金□兩壹分かし候得共、相済不申候由斷有之ニ付、右判人共并助右衛門方へ手かミを以申遣候

一銀壹匁八分 宮谷村

一銀貳匁五分 青野木村

一銀壹匁五分 十楽村

一銀貳匁壹分 高塚村

一銀壹匁壹分 前谷村

右ハ寅春御伏かへ被下候古樋代銀入札被仰付候二付、落札右之通

二候故村々へ申遣候

札主前谷市兵衛・宮谷義兵衛

一鉄炮御符印御改可被成由被仰付候二付、十楽村又右衛門鉄炮舟寄

へ持参候様ニと申遣候

同八日

同九日

一御金之御詮義ニ舟寄参候而、矢地助右衛門与ニ而清兵衛御高拾六石持候、漸当夏金壹分残り金之内へ入、于今八拾匁余之残り銀有之由、御詮義指詰り候二付清兵衛子与右衛門牢舎被仰付候、七郎右衛門組ハ金三兩余之不足二付彦三郎宿預ケニ被仰付候、高塚村者今日迄之殘金拾兩余有之ニ付、長百姓・五人組之内鬭取ニ而吉左衛門牢舎被仰付候、笹岡村今日迄殘金八兩有之候得共、当年情出し御年貢金指上候二付「一切之請合ニ而、五人頭之内仁左衛門宿預ケニ被仰□□谷畠村へ宿預ケニ被仰付候

一丑年古樋代銀右之通之入札ニ而相済候、但貳番札ハ矢地村助右衛門入申候

一金貳兩矢地村吉三郎、同貳兩貳分同助右衛門二舟寄ニ而兩人へ一度ニ相渡し申候、是ハかし可申由約束二付如此候

一金七兩年内かし置候代子ニ当六日二舟寄ニ而請取候得共、又かし申様ニと村中願二付、先右七兩之金子舟寄ニ而相渡し、笹岡村御未進金ニ入させ申候

七月十日

一谷畠村ニ而お金せんき仕候、夫ハ三国へ参候、木屋・松岡屋かし

金せんきいたし候

一菅野栗毛馬うり申候

同十一日

同十二日

一中川四郎左衛門を栗毛馬かい申候

同十三日

一谷畠村宿御預ケ之御侘言之手かミ仙右衛門様へ遣し申候、高つか
村牢入之者も申上候、谷畠村ハ今日迄残り金三両貳分余、高塚村
五両余有之候

一高塚村牢入御侘言申上候得共、残り金五両有之御免不被遊候ニ付、
牢入吉左衛門御かへ被下候様ニと庄屋長百姓奉願候付、御入かへ

「一」五人頭半兵衛牢入ニ罷成候

一米拾壹表 貸主金津伝左衛門、借主高塚村

此代銀百貳拾壹匁、刁霜月切

自分奥判いたし候

一村々牢入之義、与頭中十五日ニ舟寄へ罷出、盆中わひ事仕出牢為
致候様ニと仙右衛門様を御内意被仰越候、則此段後山へも内意申
遣し候様ニと被仰越候付、後山へ申遣し候

同十四日

同十五日

一舟寄へ高塚村庄屋長百姓めしつれ権右衛門参候而、牢入之事益之
内御侘言申上出牢被仰付候、則証文御返被成候

一金津御屋敷へ御機嫌窺ニ参候

同十六日

一御代官様備後国福山へ御所替ニ而御越被遊候ニ付、当国御支配所
村々へ御直之御廻状被遣候

一松竜寺富札開被申候

一本庄を三国へ参候

同十七日

一丑之御年貢・小物成・浮役年符金・御口米銀御手形不残村々を取
集、皆済状判形取候而権右衛門舟寄へ持参いたし、仙右衛門様御
手形・皆済状共二指上置候

同十八日

同十九日

同廿日

一舟寄へ参候而、十七日ニ持参候御手形共相改候而皆済状と引かへ
申候、但矢地・高塚・谷畠此三ヶ村皆済不仕候ニ付、皆済状出不
申候

一 丑春御かし金去十月ニ返納仕小手形ニ而請取置候を、今日助左衛門様とさん用いたし候て、丑春村々証文帳と引かへ申候

一年六十女壺人 十樂村五郎兵衛妻

一年貳拾女壺人 同村 勘四郎妹

一年六十女壺人 同村 長吉母

一年五拾女壺人 同村 十太夫妻

一年四拾女壺人 同村 長四郎妹

一年三十五女壺人 同村 市三郎妹

ノ五人

右伊勢参宮仕候ニ付板取口手形出申候

同廿一日

一 高嶋藤四郎様・奥津滝右衛門様・神田政右衛門様備後福山へ今日御立被成候ニ付、坂井郡中間六人共ニ福井へ参御見送り仕候、藤四郎様・政右衛門様へ水夫金七両貳分相渡し申候、此金子我等ハ出し不申候、福井ヨ三国へ参候

七月廿二日

同廿三日

同廿四日

一 舟寄御陣屋御払被成候間、入札届之者有之候ハ、申来り候様ニと御ふれニ付、与下村々へ申ふれ候

同廿五日

同廿六日

同廿七日

一 氣分悪敷三国罷有候而今日罷帰ル

同廿八日

同廿九日

一 亥春ヨ丑春迄御廻米入用銀指引仕、与下村々判形取申候、并助左衛門様其外藤四郎様・政右衛門様・仙右衛門様御支配之内、何之申分も無之との証文取候

一 丑年皆済状拾式ケ村へ相渡し申候

一金四拾八両三分銀拾三匁四分四厘 矢地助右衛門

内

式分 七郎右衛門分之由

式兩参分銀式分九厘 御口米手形

一金貳拾九両三分銀三匁四分八厘 同七郎右衛門

八月朔日

一本庄富札今日開可申之处 札集不申候ニ付相延候

同二日

一 谷畠・高塚・矢地村諸手形并勘定目録三通、中川村武兵衛為持、
小木仙右衛門様迄遣し申候

一 洪垂助左衛門様・高島藤四郎様・小木仙右衛門様・神田政右衛門
様御支配之内、何之申分出入無之との証文壹通、組下庄や長百姓
判形取候^(而)□仙右衛門様迄指上候而御返事被遣候

一 笹岡・中川・田中三ヶ村竹木代銀遣、笹岡村仁左衛門ニ而木屋太
郎兵衛を請取申候

同三日

一 最前申渡候亥・子・丑三年御廻米指引不足金取立之義于今埒明
不申候、去年御給知ニ相渡候村々之分笹谷役人中へ付届いたし
候処、早速相済候様ニ御申付可有之由返事参候、此上ハ各々村
方へ急度被致催促可被取立事ニ候、あなたを待被居候
而ハ一切はか取申間敷候、舟寄善右衛門ハ古組江相廻り様子と
くと申聞候様ニと次々相廻候、各も先様へ直被致催促「」
之訳此方へ可被申談候、御料ニ有「」之分定而取立置可被
申候間早々持参可有候、且又古樋弘代丑・刁両年分持参可有候、
引渡しも近々可申来候、いづれも早速埒明致度候、以上

八月三日

洪垂助左衛門 印

与頭中

右之書付早々相廻シ留り可相返候

右之御廻状後山を参候而布目へ村次ニ而遣ス

一 右之通被仰越候ニ付、上関次兵衛方へ段々申書状遣し候

一日下部仲之進殿・森市左衛門殿を六月廿三日之書状今日到来

亥・子・丑御廻米入用不足銀指引并丑・寅古樋代銀共ニ

一 銀貳百九匁五分七厘 丑春不足銀

此御米六百五石壹斗六升七合

但壹石ニ三分四厘六毛三弗宛

一 銀七百六拾六匁八分壹厘 子春不足銀

此御米三百六石貳斗貳升

但壹石ニ貳匁五分四毛壹弗宛

貳口ノ九百七拾六匁三分八厘

内

三百五拾五匁六分四厘 亥春戻り銀

此^(御米貳匁)□□百六拾貳石

但壹石ニ付六分三厘貳毛八弗宛

六百貳拾匁七分四厘

内貳百拾六匁六分壹厘 <sup>山室・新用・馬場・東善寺
轟木・下関六ヶ村分</sup>

四百^(四)匁^(壹)□□分三厘 前谷組拾五ヶ村分

外

一 銀拾貳匁三分五厘 丑年古樋代 <sup>(笹岡・北村・中川・菅野
轟木・青野木・宮谷)</sup>

一 銀九匁 刁ノ年古樋代 <sup>(宮谷・青野木・十楽
高塚・前谷村)</sup>

三口銀合四百貳拾五匁四分八厘

此金七両銀五匁四分八厘

八月四日

一右目錄之通金七両銀五匁四分八厘權右衛門二もたせ舟寄へ指上候へハ、御手形ハ不被遣候て仙右衛門様手紙被遣候、但右之金之内壹分悪金候而仙右衛門様を御扣被遊候、悪金ハ此方へ返り申候

一谷畠村・高塚村・矢地村丑御年貢勘定目錄御裏判相済請取候

一矢地村靈順娘いきと申女、河内国菱江村竜慶と申者之妻遣し申度候間、板取口通手形申請度由里村願出候、然共右之いき母親さく付居申二付、庄屋七郎右衛門長百姓之下証文出し不申候而ハ、御手形出不申由申渡し候へハ、里村と七郎右衛門と中悪敷候付、七郎右衛門頼候事成中間敷と申二付、尤靈順も江戸へ参候由二而宿居不申候間江^(戸)を罷歸り候て靈順ニ為願可申と□□□、此度ハ相延可申由里村申候

一亥・子・丑御廻米入用不足銀之事、上関村次兵衛方へ兩度以書状申遣し候処、村々へ急度申付押付為相済可申由返事有之候

一今日未之下刻ニ妙林尼御果被成候

同五日

同六日

一十楽村伊勢参宮之女共今日罷歸り候二付、通御手形舟寄へ返上仕候由、然共下証文御返シなく候由断ニ参候

同七日

一中番村利兵衛江戸を今日罷歸り候由ニて、御代官所村^(分)之様子嘸二而承候

同八日

同九日

一宮谷村義太夫、江戸ニ而金貳両貳分同村丑御年貢ニ指上置候由申越候得共、宮谷村御年貢ハ此方ニ而皆済申二付、右之段々仙右衛門様迄以書状申上候処、義太夫罷歸り候而如何様共御相談被遊可被下候由、御返事ニ被仰越候

同十日

一東長田・河間・下兵庫・安嶋・崎浦・布目・加戸・池上・高塚・中川・田中・北村・北野・矢地・菅野・柿原十楽・二郎丸・北正田・御簾尾、メ拾九ケ村、高メ壹万三千七百拾五石七^(斗四升)□□壹合、外高千五拾六石三斗九升、吉田郡^(六千)□□三百八拾壹石八斗貳升五合、大野郡四百^(三拾)□□石三斗八升七合、惣メ貳万五千五百八拾四石三斗四升三合、石田へ付申由布目を申来り候

一舟寄善右衛門方を御陣屋へ参候様ニと被申越候付舟寄へ参様子承候処、石田・鯖江村^(分)ハけ之事右之通ニ候

一亥・子・丑御廻米入用不足銀与下拾五ケ村分銀四百四匁壹分三厘、当三日ニ指上候付御帳面ニ判形仕候

一宮谷村義太夫・東長田村伊右衛門、江戸へ昨九日二帰着仕舟寄二罷有あい申候

一右廻米入用銀之事二付、上関村次兵衛方へ寄候而罷帰り候

鯖江御役人并与頭中

青山 藤介様 牧谷村関 六郎右衛門

渡辺団右衛門様 下新庄福岡平左衛門

中野元右衛門様 中戸口玉村弥左衛門

杉山織右衛門様 松ヶ谷 勘兵衛

尾花園右衛門様 猪嶋 羽生次兵衛

北嶋岡右衛門様 掛屋 上野仁兵衛

木村平八殿 馬指 清兵衛

八月十一日

一鯖江村門兵衛、坂井郡与頭中宿^(之)義被申来候

一宮谷村義太夫今日はへ参候

一金四両三分銀拾匁壺分四厘 高塚村

一金三両貳分銀七匁九分壺厘 谷畠村

右ハ丑御年貢納下り証文判形ニ庄屋とも舟寄へ遣し申候

同十二日

一高塚村丑御年貢御勘定目録相渡し申候、但二郎兵衛・又右衛門両人参候由

一加州大正持糸屋^(寺)と申者加州御追放ニ相申处、十楽村彦四郎縁者ニ候故兩日之逗留ニ而参候由彦四郎申二付、追放者之義一日も指置

申義難心得候、早々何方へも参候様可被致候、若逗留不致候而不叶子細有之ハ御断可被申上由申渡し候

同十三日

明後十五日郷村引渡候之間、各舟寄陣屋迄明十四日之晩へ可被参候、石田・鯖江役人中へ相談申候处、村々庄屋ハ不及呼寄ニ由二候間、其通ニ可被相心得^(候以上)□□

八月十三日

洪垂助左衛門印

善右衛門殿

武右衛門殿

二郎左衛門殿

尚々御廻状披見之上相廻し、留りへ可相返候

一前谷武右衛門、鯖江へ与頭共書状為持遣し申候

一菅野・谷畠村・北村・中川村、右四ヶ村百姓困窮之由願状壺通宛指上申候

同十四日

一笹岡・北野右之通願状指上候、但北野村ハ当夏中川除自普請ニ仕候段書付指上申候

一神田政右衛門様大坂へ八月二日中ヶ間連状被下致拝見候

一東長田村藤右衛門牢舎御侘言仕出牢仕二付、藤右衛門証文二中ヶ間不殘加判致候

一谷畠村御ふしんふち代銀請取、我等仮手形四月六日二指上候処、本証文二庄や判仕候付右手形取返し消申候

同十五日

一鯖江の青山藤介様・渡辺団右衛門様、石田の吉田斧右衛門様・川崎甚平様、舟寄ハ洪垂助左衛門様・小木仙右衛門様、魚屋惣右衛門方ニ而御立合候而郷村御引渡被遊候、但村々庄屋長百姓不罷出与頭共斗罷出候、鯖江方ハ善右衛門方ニ御泊り、石田方ハ掛屋忠兵衛ニ御泊り、藤介様ハ今日御帰り被成候

同十六日

一鯖江御下村々庄屋長百姓不殘舟寄へ被召寄、御支置段々被仰付、村々与頭付被仰付候

舟寄善右衛門組下、北横地・中筋・大針・徳分田・上新庄・谷畠・河間之内宮前・藤沢・舟寄、村数九ヶ村高
後山茂右衛門組下、後山・川上・清滝・鎌谷・桐村・清間・伊井・南正田・里竹田・玄女・御油田・河和田・田嶋・宮領、村数拾四ヶ村高

前谷二郎左衛門組下、前谷・笹岡・宮谷・青野木村・西方寺・清王・赤尾・横垣・井江葭・国影・牛山・城・同新家・舟津・西谷・

十楽・田中々村・番田村・重義、村数拾九ヶ村高

一宗門御改之義、右村々の丑年指上候宗門御改帳御返し被成、奥書を仕村々庄屋長百姓・五人頭判形仕指上候様ニと被仰付、案文被遣候、留書有

一刁の丑迄拾貳年之間取米・免書付指上候様ニと被仰付、案文有、但丑年御免帳不殘壹村ツ、写し指上候様ニと被仰付候

一御支置書被遣写取、留有

一右村々与頭付被仰付庄屋長百姓証文御取被遊、三人之与頭共も奥判仕指上候

同十七日

「一門様舟寄の今日御帰被遊候、酒□清左衛門「一酒桶之封印我等切候而封紙取置可申由、尤酒「一申度願二候ハ、其通二仕候様ニと被仰付候

八月十八日

一亥の丑迄御廻米入用銀指引不足銀、轟木・東善寺村一昨十六日二相済申候、但轟木村弥兵衛方へ権右衛門仮り遣し申由二候へ共不返候、重而返し可申由庄や彦兵衛断二候
一右不足銀之事ニ武右衛門六ヶ村へ遣し申候

同十九日

義、舟渡りニ而谷畠・河間之内宮前・藤沢・上新庄・徳分田・大針・舟寄御泊り、右之通書付指上申候

一 御仕置書巻冊指上申候、留有

一 宗旨帳丑年御改帳ニ奥書仕指上候、留有

一 一ノ年・丑年〆拾貳年御取米付・免付帳指上ル、留有

一 丑年御免状写拾七通指上、但新家ハ城村御免状之内ニ有、国影村

ハ丑年御免状助左衛門様御用ニ付指上置候由ニ而写上ケ不申候

一 右絵図証文之義ハ少遅り候而も不苦候由、右何も藤介様・団右衛門様被仰付候

一 廿一日〆鯖江彦五郎方ニ泊り候て今晚罷立、福居法性院ニ泊り

一金壹分丑年御初尾法性院へ相渡ス、但去年ハ□□へり候故御初尾も減シ候得共、当年分ニ指引可仕由断申入候

同廿三日

一 「一」六人之与頭共舟寄へ寄合、去丑暮〆当寅「一」迄諸人足・馬・飛脚賃、其外牢番給・門番給相改郡中割仕候

一 □春〆丑春迄御廻米入用三匁銀之外不足銀之内、紀州様御領六ヶ村分貳百拾六匁六分壹厘取立、御陣屋へ指上、助左衛門方ニ有之候帳面ニ権右衛門判形仕候、次ニ子春三匁銀ハ神田喜兵衛様御請取候而村々へ御手形御渡し被成候を、入用指引帳面を以指引申聞、御手形不残取返し候、丑春三匁銀ハ木内八九郎様御請取候而御手形村々へ御渡し被成候付、是も指引申聞手形返し申候、其内御手

形持失申候村々ハ、重而右之御持出御算用ニ立申間敷との返り手形、村々庄屋方〆取候而、右兩年之御手形・村々庄屋返り手形共ニ御陣屋へ指上候、亥年ハ三匁銀我等方へ請取村々へ手形出シ申ニ付、御帳面を以指引申聞、戻り銀相渡し候て村々庄屋長百姓連判証文を取御陣屋へ指上候、但留有、亥春村々へ出し申手形我等方へ取返し申候、手形持失申村々ハ留帳ニ判形取申し候、子・丑兩年不足銀有之候而重而不足銀出し申段証文取置候

八月廿四日

一 渡辺団右衛門様能州御越被成候、文右衛門様江戸〆能州へ御着被遊候ハ、早々可被仰越由被仰聞候

同廿五日

一 折立九郎左衛門殿、備後福山へ出立被致候

一 八月六日神田喜兵衛様〆彦兵衛・自分兩人方御状被下候、夫米願之事其外御代官替り之事ハ□□与頭中へ連状被下候、右兩人方へ之御状ハ自分□□有之候

同廿六日

一 銀壹貫三百四拾匁八分壹厘 人馬帳壹冊之上

一 銀壹貫四百七拾八匁壹分五厘 飛脚賃給銀帳

壹冊之上

貳口銀合貳貫八百拾八匁九分六厘

内

銀壹貫六百貳拾匁

仮先わり

銀六百六拾五匁

仮跡わり

銀拾五匁

丑暮

残

銀五百拾八匁九分六厘

此高四万八千拾五石壹斗壹升四合

此割当り千石二拾匁六分三厘貳毛ツ、

銀八拾五匁壹分九厘

前谷組

此高八千拾貳石壹斗九升五合

舟寄善右衛門と指引之覺

一銀貳百八匁

水夫銀当り

一銀百九拾五匁

五月八日之割当り

一銀八拾三匁

七月九日之割当り

一銀八拾五匁壹分九厘

八月廿六日割当り

銀合五百七拾壹匁壹分九厘

内

八匁

二郎左衛門金津へ取かへ

壹匁貳分

かミ代取かへ

壹匁五厘

麻木三東代

拾貳匁八分

是ハ御役人衆三国ニ而諸遣銀六拾四匁、中

ケ間五人として取かへ置候ニ付わりニ仕指次申候

拾五匁五分

門松五かさり分

但御門之前之門松ハ三匁五分

八匁

竹之代銀

三匁六分

当春能州へ遣「」三分代

百貳拾匁

七月十一日ニ善右衛門ニ渡

三百七拾五匁

八月廿五日善右衛門ニ渡

此金六両壹分

拾六匁六分

是ハ丑暮水夫金取集候へハ中ケ間之内ニ而銀

百匁出し過候ニ付、色々吟味仕候へ共出主知不申候ニ付、

六人としてわり取申候

メ五百六拾壹匁七分五厘

残九匁四分四厘

不足

右之通善右衛門留帳ニ有

一金拾両

洪垂助左衛門様へ 中ケ間六人連判ニ而かり金

是ハ飛脚賃銀・水夫銀其外払方今日切ニ相済申候処、割銀取

立不申候ニ付御断を申上候へハ、亥春ハ丑春迄御廻米入用不

足銀御給知渡り村へ相済不申候ニ付、当寅之春御廻米入用五

匁銀之内御貸被成候、当春之入用銀御さん用被成不足有之候

ハ、右之金取立返済可申由之証文指上金子請取、右之内壹

両壹分源左衛門、壹両三分武兵衛、壹両彦兵衛、貳両貳分二

郎左衛門、壹両貳分茂右衛門、貳両善右衛門わり取候而、如

此之留書善右衛門方ニ有之候、盛帳之奥ニ書付有

一此度御引渡相済候而助左衛門様早々江戸御出立可有之処、御延引

之義ハ御給知渡り村御廻米入用不足銀相済不申候ニ付、御待候而
延引ニ候へ共、とかく不足銀済切不申候故御断を申上、右之金子
□り不足銀ニ指上申由別紙口上書指上申候、尤留□□

舟寄御陣屋之内残り物之覚

一銀三拾八匁	長屋之代銀	半右衛門
一銀拾貳匁	□□き代銀	五兵衛
一銀五匁	玄館貳ヶ所	同人
一銀四匁	公事場	同人
一銀拾匁	雪隠四ツ	同人
一銀四匁壹分五厘	(炭櫃) すひツ・やくら共ニ	同人
一銀壹匁六分	かこ壺丁	同人
一銀三匁五分	勘定場縁	同人
一銀三匁六分	かこ貳丁	武兵衛
一銀壹匁八分	かこ貳丁	森川村
一銀貳拾匁	鞍壺口・轡共ニ	彦兵衛
一銀七匁	同壺口	武兵衛
一銀拾五匁	同壺口	善右衛門
一銀壹匁	三かい	二郎左衛門
ノ百貳拾六匁六分		
三匁六分	人足違ニ引	
内拾五匁	善兵衛去夏引かへ銀之利ニ渡	
残百八匁		

右之通舟寄五兵衛可取立定ニ候、但入札預り置候

一戌暮々当寅八月廿六日迄盛銀指引、舟寄村善右衛門と立合年切ニ
相済申ニ付、与頭中手前ニ善右衛門手形・手紙等有之候共、又盛
帳ニ消落シ有之候共、重而取起シ算用仕間敷由、善右衛門と証文
取替シ善右衛門証文有

八月廿七日

一洪垂助左衛門様江戸へ御出立被成候、何も与頭中舟寄ニ而諸事指
引相済罷歸り候

一法性院御札拾九ヶ村分請取置候

一舟寄なへ屋七左衛門と指引算用仕、銀四拾四匁五分五厘之預り手
形相渡し申候

一今夜後山村善兵衛頓死被致候

同廿八日

同廿九日

同晦日

一後山善兵衛頓死之義、舟寄善右衛門・自分兩人方々以書状藤介様
へ御注進申上候、舟寄村惣右衛門ニ遣し候

九月朔日

同二日

一 国影村寅九月迄庄屋茂左衛門相勤候へ共、来卯年ハ次左衛門庄屋番ニ候故相替り可申旨断ニ候、重証文可取事

一 井江葭村庄屋二郎右衛門、当月ハ代り長左衛門相勤可申筈ニ候

一 舟津村庄屋弥次兵衛庄屋上ケ申ニ付、同村清右衛門本組庄屋立候而相勤可「」孫右衛門・九左衛門兩人長百姓相勤被申候

一 赤尾村も年替り之庄屋ニ候間替り申度由庄右衛門断ニ候

一 村々庄屋中呼寄、五拾四年以前正保貳年酉ノ年以来新川・新池沼・

新道其外、何ニ而も違変之事有之候ハ、吟味之上書付可申上候、

他領他村へ入作・越高等候ハ、申上候様御書付を以申渡し候、併五十年以来之義ニ候へハ村之内ニ而能々吟味之上、重而被申上候

様ニと申渡し候

一 五人組帳ニ高を付下帳被遊候様ニと申渡し候

一 頃日布目本組拾三ヶ村ハ、前谷ハ遠方ニ候間拾三ヶ村之内ニ与頭を立申度由奉願由ニ而、相談有之由風聞ニ候故、与頭村遠方之義

御料・御私領其例余多有之事ニ候得共、此方斗之様ニ訴訟可有との事ニ候へハ・指而止可申様も無之候、併新与頭難立事も可有候

間、よほとならハよしニも被致候様ニと、若又右之通之内談有之

候とて遠慮被致村々願事も有之候ハ、指置被申間敷候、願之事歎

事ハ何様ニも可被申上候、早速取次可申上と申渡し候へハ、何も

庄屋中被申候ハ一応ハ左様之相談も仕候得共、達而可申上相談も

不仕候□被申候ニ付、其義ニ候ハ、向後互ニ心安御用事被相勤候

様ニと申渡し候

一 御検見御通り道筋之義、前谷村御泊りハ清王・赤尾・横垣・井江

葭・国影・牛山・城・同新家・舟津・十楽・田中々村御泊りと申

上度由何れも被申候、西谷ハ何とぞ御見込被成候様ニ申上度候

一 最前預り置候ヲハ丑迄拾貳年之御免帳、「」今日村々庄や

中へ返し申候

九月三日

一 後山村善兵衛頓死之義、青山藤介様迄晦日ニ御注進申上候へハ御返事被遣相届申候、則茂右衛門忌中ハ御用之義善右衛門・自分为兩人と相勤候様ニと被仰越候、御状有

同四日

一 善兵衛相果忌中之間御用等舟寄村善右衛門・前谷村二郎左衛門方ハ可申付候間、村々相守候様ニと杉山織右衛門様・尾園右衛門様(尾花)・喜多嶋岡右衛門様・青山藤介様ハ後山与村々御廻状被遣、留り村ハ二郎左衛門方へ返し候様ニと被仰越、櫛村ハ御廻状持参申候

同五日

一 銀八匁 貸舟役 城村

是ハ如何様之訳ニ而候哉

一 塩七石五斗 塩浜地子 同村

是ハ増減無之定納物とハ察候得共、大体壹ケ年ニ塩何ほと焼

候哉

一銀貳匁

油役

十楽村

是ハ自余之村ハ油之員数相究、年々油直段を以銀ニ而相納候得共、如何様之訳ニ而十楽村ハ銀ニ而相納候、油升目ハ知不申候哉

一銀壹匁貳分五厘 油実役

川上村

是ハ何之木之実ニ而候哉、油ニしほり候実ハ色々有之二付相尋候

一大工役・紺屋役・室役・油役、此品々前々之通当年増減無之候哉、此外ニ職人出来候哉、後山与下共ニ令吟味早々可被申聞候、尤小物成増減有之村、諸職人出来候村有之ハ、其村々庄や長百姓早々可被指越候

右之品々相尋早々可被申越候

九月四日

杉山織右衛門 印

尾花園右衛門

喜多嶋岡右衛門 印

青山 藤 介 印

舟寄与頭

善右衛門殿

前谷村与頭

二郎左衛門殿

追而城村之新田家居ハ城村ハ何之方当り候哉、方角をふり、先達而申渡し候国絵図之義ニ付相尋候書物之内ニ書付可被申候

同六日

一国絵図之御書付之品々当二日ニ村々へ申渡、村之内ニ而吟味為致候而五十四年以来相替も無之村御書付判形取申候、留書有

一銀八匁城村貸船役、塩七石五斗同村塩浜地子、銀貳匁十楽村油役、銀壹匁貳分五厘川上村油実役、其村々庄屋長百姓吟味之上証文を取指上候ニ付留書有、其外村々大工・紺屋・室屋・油屋・諸職人当年初而出来不申候由証文を指上候、留有
一前谷村六兵衛室入申度願状指上候ニ付留有

一村々去丑御年貢米之内、当寅之春江戸へ相廻り候御城米員数聞届早々書付可被指出候、尤後山茂右衛門組村々共ニ致吟味書付可被指越候、以上

九月五日

青山藤介 印

舟寄

善右衛門殿

前谷

二郎左衛門殿

右之御廻状舟寄ハ村次ニ参候

丑御年貢之内寅春御廻米之覚

一米拾七石六斗八合

十楽村

此欠米七斗九升貳合

一米拾八石七斗五升六合

田中々村

此欠米八斗四升四合

一米拾四石壹斗六升三合

番田村

此欠米六斗三升七合

一米拾五石三斗壹升壹合 重義村

此欠米六斗八升九合

一米四石九斗七升六合 横垣村

此欠米貳斗貳升四合

一米四拾貳石八斗七升壹合 井江葭村

此欠米壹石九斗貳升九合

一米拾貳石六斗六升貳合 赤尾村

此欠米五斗六升八合

一米拾石三斗三升五合 牛山村

此^(欠米四斗)□□□六升五合

一米貳拾三石七斗三升貳合 国影村

此欠米壹石六升八合

一米四拾三石六斗三升六合 舟津村

此欠米壹石九斗六升四合

一米貳石六斗七升九合 西谷村

此欠米壹斗貳升壹合

右拾壹ヶ村ハ布目彦兵衛^ハ書付参候

一米四石貳斗壹升壹合 前谷村

此欠米壹斗八升九合

一米四拾五石五斗五升 笹岡村

此欠米貳石五升

一米三拾五石九斗八升壹合 宮谷村

此欠米壹石六斗壹升九合

一米三拾五石貳斗壹升五合 青野木村

此欠米壹石五斗八升五合

一米七斗六升五合 西方寺村

此欠米三升五合

一米拾貳石貳斗四升九合 清王村

此欠米五斗五升壹合

米合三百四拾石六斗七升

此欠米合拾五石三斗三升

右ハ去丑之御年貢之内、寅春御廻米并欠米共書付指上申処少も相違無御座候、此外城村・同新家皆金納二而御廻米納不申候、以上

元禄十一年刁ノ九月

覚

前谷村与頭
次郎左衛門 印

一御国絵図書付壹通 前谷組

一同壹通 後山組

一小物成増減証文壹通 前谷組

一同壹通 後山組

一越高・入作高改帳壹冊 前谷組

一同壹冊 後山組

一寅春御城米帳壹冊 前谷組

一同壹冊 後山組

一川上村油実役書付壹通 同

一後山村鉄炮証文壺通

同

但鉄炮ねちかね二団右衛門様御封印被遊候

一城村貸舟役并塩浜地子御尋之証文壺通

一同新家村由緒、城村方角付之証文壺通

一十楽村油役銀御尋之証文壺通

一前谷村六兵衛室屋願狀壺通

右之通入日記仕、外藤介様書狀壺通「」前谷六兵衛ニ為持今日遣し可申之處、判形相濟不申候ニ付八日二鯖江ニ遣し候

一舟津村孫右衛門・九左衛門参候ニ付、弥次兵衛庄屋上ケ申度由願申候間、村之内ニ而相談いたし跡庄屋相立可申候、只今迄之通庄屋耆人相立可然候、是非共式人立不申候而不叶事ニ候ハ、其品可申来由申候

九月七日

一舟津村弥次兵衛・次右衛門参、清右衛門本与之分ハ庄や仕候事成不申候と達而申ニ付、然ハ清右衛門・本与之者共ニ其段相断庄屋為立申様ニと申付候

一横垣村才兵衛と申者耆本松へ罷出茶屋可仕由申候、当村為立除可申候哉二郎兵衛断ニ候、御高も持不申何之構無之者為渡世所をかへ申事、村ニさへ構無之候へハ御公儀ニハ指而御構も有間敷候、村ニ構有之事ニ候ハ、早々断可有候由申渡候、然者又右才兵衛倅先月何方やらん参候ニ付、才兵衛証文為致置候由二郎兵衛申ニ付、

其者行末ニ而悪事仕出来候而村へ難題も掛可申者と被為存候ハ、村逐電者ニ候へハ行末ニ而悪事仕候共、村へ難義懸り不申候様ニとの書付被指上候様ニと申候

一右之諸書物前谷六兵衛為持鯖江へ指上申候

同九日

一横垣村才兵衛倅行衛知不申候由、才兵衛・長百姓・七郎兵衛□段々相断候ニ付証文取置申候、尤留書有

九月十日

一鯖江へ諸帳面証文等為持遣し候、前谷村六兵衛罷歸り書物共御請取之由、御返事藤介様被遣候

一前谷村六兵衛室屋願狀悪敷候由、御返し被成案文被遣候、留有
一子年夫食・作食年符御貸金指引帳指上候様ニと被仰越、留有
一去丑御年貢金之内納下り有之村々ハ、帳面ニ庄屋長百姓判形為致指上候様ニと被仰越候、帳面案文之次第ハ

丑御年貢納下り金之覺

一金何両何分銀何程 何村

一金何両何分銀何程 何村

合金何拾何両銀何程

(舟寄代官)

右者六倉与兵衛様御代官所之節去丑之御年貢納下り金如此ニ御座候、御尋ニ付書上申候処右書面之通少も相違無御座候、以上

寅九月

何郡何村庄屋
たれ印

長百生
たれ印

何村庄屋
たれ印

長百生
たれ印

(古郡年明・鱈江代宣)
古郡文右衛門様

御手代衆中

一新家由緒書付悪敷候由ニ而御返し被成案文被遣、留有

一当刁御年貢初納金与切惣高二而百石ニ付金三両之積、去年之米積を以無甲乙割候而、十月十日切ニ取立可指上候、後山与ハ茂

右衛門方へ取立可被申候由被仰越候

一丑納下り金ハ当晦日切不殘取立可指上候、後山組ハ茂右衛門方へ相納候様ニ可被申達候

一前谷村酒屋清左衛門去丑年酒運上金何程指上申候哉、相違無之様

ニ書付判形為致可指上候

一殿様八月廿五六日頃江戸御出立能州へ直ニ御着、能州ニ而壹万三千石不殘御検見被成由ニ候得ハ、当月十七八日頃此筋へ御移可被成哉と被仰越候

一初納金去年之米ニ割申様ニと被仰越候、取米斗ニわり可申候哉、夫米共ニ打込わり可申候哉、重而窺可申事、然共取米斗ニ而ハ村ニハ大分之高下可有御座候間、夫米共ニ打込わり可申事と存候段窺可申事ニ候

同十一日

一鱈江ハ被仰越候段々後山平介を委細申聞候、馬場源兵衛御検見ニ

(石田代宣)

江戸ハ御越被遊、当五日ニ石田へ御着、当十七日ニ丹生郡ハ下兵庫ニ御泊り、十八日二次郎丸・正田此辺拾壹ヶ村御見分被遊布目御泊り、菅野十右衛門方ニ御昼休、布目ハ安嶋へ御越之由、彦兵衛方ハ被申越候

指上申証文之事

合式拾七両壹分銀式匁六分

右者去丑年私造込候酒員数御改之上、為運上銀右之通指上申処少も相違無御座候、重而御吟味之節相違之義御座候ハ、何様之越度ニも可被仰付候、為後日仍如件

元禄十一年寅九月

坂井郡前谷村酒屋

清左衛門印

古郡文右衛門様

御手代衆中

右之証文清左衛門指上候、留証文なし

一子年夫食・作食拝借金村々相改、帳面ニ書付指上候様ニと被仰越候ニ付、布目彦兵衛方へ本帳借りニ遣し取寄拾三ヶ村分写取申候、并刁ノ年飢食代金本帳も彦兵衛方ハ取寄候而拾三ヶ村分写し取申候

一去丑御年貢納下り村々相改書付指上候様ニと被仰越候ニ付、拾三ヶ村分彦兵衛方へ相尋候得共納下り無之由被申越候

同十二日

一西方寺村太郎左衛門、同村市郎兵衛方ニ高当り之開畑取込置候事、

并山境論之事、質物を取銀子かし申事出入有之由申来り候二付、庄や十右衛門を以申候様ニと申付候而返し申候

一宮領村・田嶋村庄屋長百姓参候而、畑方諸作共ニ悪敷候間一通り見分仕くれ候様ニと願状持参候二付、書付ハ後山へ可被相渡候、見分之義ハ相談いたし善右衛門と立合見可申由申渡し候

一十楽村・舟津村両村ハ捨馬之高札・諸勧進之高札、文字消申由ニ而持参ニ付指置申候

一田中々村ハ捨馬之高札壹枚文字消申由ニ而持参仕候

九月十三日

一布目彦兵衛方ハかり置候子ノ年御貸金帳・刁ノ年御貸金帳式冊、十楽村七兵衛ニ言伝返し申候

一西方寺村太郎左衛門、庄屋十右衛門を以訴訟申二付論山之段々書付持参候様ニと申付候、庄屋十右衛門ニハ村ニ而山手銀取立之段先庄屋太郎兵衛方吟味仕書付出し申様ニと申渡し候

一西谷村、御代官所最ハかへ被遊被下候様ニと願状指上候二付請取置候、尤下書有

一宮谷村義太夫当年江戸御廻米納庄やニ参早速仕廻罷歸り候二付、損料参候由願状指上候二付請取置候

一同村当作願状指上候二付請取置候

一子年御貸金年賦帳ニ村々庄や長百姓判形取候、并寅年御かし金帳ニも判形取候

(石田代官)
一馬場源兵衛様御通り之村之道橋悪敷候ハ、少々作申様ニと申付候、其上村々地内御通被遊候ハ、庄屋長百姓罷出御馳走被申候而も可然由申渡し候

覚

一前谷村六兵衛室願状壹通

一子春御貸金帳壹冊

一同後山組壹冊

一去丑御年貢納下り我等与下ニハ無御座候由申上候

一後山与右納下り壹冊取立之義「」ニ茂右衛門方へ取立可申由申上候

一当寅初納金、組切惣高二而百石ニ金三兩宛を取米斗ニ割付可申候哉、取米・夫米共ニ打込割付可申候哉、窺申上候

一前谷村清左衛門去丑年酒運上銀書付壹通

一横垣村才兵衛倅行方無之候との書付壹通

一馬場源兵衛当十七日ニ丹生郡ハ下兵庫ニ御泊り、十八日ニ二郎

丸・疋田・菅野・高塚・十楽・池上ハ布目へ御入被遊候、道橋悪敷所ハ少々作らせ可申候、又村々地内御通り村ハ庄屋共罷出、御馳走申上候様ニと可申付候哉、窺申上候

一殿様能州ハ御越之節、善右衛門・拙者ハ大正寺辺罷出可申候、善兵衛ハ相煩候と申上候、且又御支配下村々庄屋共本松迄罷出御目見へ奉願候

一後山組下村々当作見分仕くれ候様ニと願候間、百姓願ニ候間善

右衛門・拙者立合一通り見可申候哉、窺申上候

一舟津・十楽・田中々村捨馬之高札文字消見へ不申候二付、古板

削直シ御書直シ被下候様ニと申上遣し候

一後山村捨馬高札壹枚御書被下候様ニと申上遣し候

右之段々覚書二仕、後山村奎兵衛ニ為青山藤介様迄指上申候
(持脱力)

一新家由緒書杉山織右衛門様御直し被遊、御状被添最前御返し被
成候付、此方ニ而書付認候而御返事相添織右衛門様迄別ニ指上

申候

九月十四日

一内検見ニ罷出、笹岡・宮谷・青野木・西方寺・赤尾・横垣・井江
葭・国影・牛山・舟津・城・新家・西谷村の三国へ参泊り候、十
五日二十楽・田中々村・番田・重義見候而罷歸り候

一与下村々庄屋長百姓之名書仕指上候様ニと、織右衛門様を被仰付
候由ニ而善右衛門方へ申越候二付、後山組共ニ善右衛門方へ遣し
申候

一赤尾村六と申者、十四才ニ罷成両親共ニ無之候而方々乞食仕罷有
候得共、少ツ、盜等仕候由ニ御座候へハ村へも寄付不申候、母ハ
すき、伯父八十右衛門、いとこ又兵衛・左次兵衛御断申上、村へ
立寄不申何方ニ而何様候事仕候共、村ニ構不申候様ニ被仰付被下
候様ニと願出候、証文ハ取不申候

同十五日

覚

村々去丑宗門改帳^(舟寄代官)安倉与兵衛様御手代中へ被引渡候、則相違無

之候旨村々庄屋長百姓奥書印形取之被指出候得共難用、依之案
帳遣し候間村々人別宗門念入相改、右案紙之通帳面仕立来月中
可被指出候、此書付重而可被相返候、以上

九月十四日

中野元右衛門

杉山織右衛門

喜多嶋岡右衛門

青山藤介

舟寄与頭善右衛門殿

前谷与頭二郎左衛門殿

追而後山へも前谷村二郎左衛門方へ可被申付候、右案帳式冊之
内壹冊ハ善右衛門方ニ残置、壹冊二郎左衛門方へ舟寄へ可被相
届、写取二冊共ニ此方へ返し可被申候

一十四日ニ鯖江御陣屋へ指上候覚書之通御請取被成候由、藤介様御
返事被遣候

一横垣村才兵衛倅男子ニ候哉聞届重而可申上由

一殿様能州へ此表へ御移之義十八日御到着之筈、尤十七日之晚金津
二御一宿、渡辺团右衛門義ハ能州相残可申と存候、為御迎此方へ
杉山織右衛門来十六日二舟寄迄被参、十七日之晚よめおとしの茶
屋迄被参候様ニ可申渡候

一後山善兵衛御尋無之候ハ、何共申上間敷由被仰越候

一後山組村々立毛一通り見申義、殿様も近々御着前二候間先々延引いたし候様にと被仰越候

一前谷村酒屋清左衛門新酒造込之節ハ、御陣屋へ御断申上候様にと被仰越候付、其段清左衛門方へ申渡し候、庄屋市兵衛を以申渡し候

組下村々高付

一高百三拾九石貳斗六升八合

前谷村

一高六百貳拾貳石八斗三升

笹岡村

一高四百七拾八石七斗三升

宮谷村

一高六百三拾貳石四斗四升

青野木村

三百四拾四石三斗六升九合
内百七拾貳石三斗八升六合
百拾五石六斗八升五合

青野木村
十楽村
清王村

一高五拾四石五斗五升

西方寺村

一高百七拾貳石四斗壹升

清王村

一高貳百九拾四石六升九合

赤尾村

一高百貳拾四石五斗壹升

横垣村

一高七百拾八石七斗四升

井江葭村

一高三百九拾七石四斗

国影村

一高貳百三拾七石七斗壹升

牛山村

一高七百九石七斗四升八合

船津村

一高百貳拾五石八斗

城村

一高六石四斗九合 無諸役

同新家

一高百九拾九石六斗七升

西谷村

一高七百六拾九石九斗五升

十楽村

一高九百貳拾貳石八斗五升

田中々村

一高七百拾石貳升

番田村

一高七百壹石五斗

重義村

高合八千拾八石六斗四合

此金貳百四拾兩貳分 但百兩^(石)二三兩宛

此米千五百六拾六石八斗五合 丑^{取米}夫米共二

但米百石二銀九百貳拾壹匁

此金拾五兩貳分銀六匁

此割

金三兩壹分

前谷村

金貳拾八兩貳分

笹岡村

金貳拾貳兩壹分

宮谷村

金拾貳兩貳分

青野木村

金六兩壹分

同村之内十楽

金四兩壹分

同村之内清王

金七兩三分

清王村

金三分

西方寺村

金八兩三分

赤尾村

金三兩貳分

横垣村

金貳拾七兩二分

井江葭村

此米百八拾壹石壹斗貳升貳合

金拾五兩壹分 此米百石壹斗四升五合	国影村
金七兩壹分 此米四拾七石六升七合	牛山村
金貳拾八兩 此米百八拾三石壹斗壹升五合	舟津村
金三兩壹分 此米貳拾壹石九合	城村
金壹分 此米六斗四升壹合	同新家
金三兩 此米拾九石三斗六升八合	西谷村
金拾五兩壹分 此米九拾八石五斗五升四合	十楽村
金拾六兩二分 此米百八石八斗九升六合	田中々村
金拾貳兩二分 此米八拾三石七斗八升貳合	番田村
金拾三兩壹分 此米八拾六石貳斗八升五合	重義村
合金貳百四拾兩貳分 此銀拾四貫四百三拾匁	

右ハ当寅之御年貢之内新納金之割、則来ル十月十日切上納仕候様
 二と村々へ申付候、則右之書付鯖江へも指上申候、使前谷村武右
 衛門

九月十六日

一殿様能州明十七日ニ此筋御移之由ニ付、為御迎杉山織右衛門様舟
 寄迄御越被成候ニ付、舟寄ニ参候へハ只今能州へ御飛脚参候ハ、
 此方へ御移一日相延候而十八日ニ御着之由、織右衛門様御申被成
 候ニ付、村々庄屋中十七日壹本松迄罷出被申間敷由、重而はいふ
 遣し申候

一後山茂右衛門服忌之内ハ殿様御泊り被遊間敷候間、御検見御泊り

付仕直シ指上申様ニと織右衛門様被仰付候、則村立之絵図仕指上
 候様ニと被仰付候、舟寄へ罷歸り候

一新家村之書付御請取被成候由織右衛門様御申被成候

同十七日

一舟津村捨馬之高札書直し相渡し申候
 一井江葭・牛山当作願狀指上候、請取置候

同十八日

一坂井郡之内鯖江御支配所と入込候村々ハ、他領共村立之絵図仕織
 右衛門様へ指上申候

一舟寄へ廿丁宮領・三丁田嶋・拾丁河和田・七丁御油田・四丁玄女・
 四丁里竹田・六丁南疋田・三拾丁川上・拾三丁後山・七丁清滝・
 四丁鎌谷・三丁櫛・七丁前谷・拾八丁笹岡・廿貳丁清間・六丁伊
 井・壹里船渡、菅野通ニ而壹里青野木・五丁宮谷・拾貳丁西方寺・
 廿三丁赤尾・廿貳丁横垣・壹丁井江葭・六丁国影・廿三丁清王・
 拾八丁牛山・貳拾五丁城村・五丁新家・壹里五丁西谷・廿五丁舟
 津・拾三丁十楽・貳丁田中々村・四丁番田・六丁重義・拾貳丁舟
 渡ニ而谷畠・壹間河間宮前・五十丁藤沢・貳里拾丁上新庄・四丁
 徳分田・廿丁大針・拾八丁舟寄・拾五丁北横地・廿丁中筋、村々
 道法大積り書上ケ候様ニと被仰付候ニ付、右之通織右衛門様へ書
 付指上候

一殿様能州へ御着二付、右村々庄屋長百姓召連壹本松茶屋迄罷出、
織右衛門様御取次二而御目見得いたし候、夫へ北金津大文字や源
介方二御泊り二付、舟寄善右衛門・自分兩人共御目見得被仰付候、
則後山善兵衛相果候二付弟ハ何ツ斗と御尋二付、廿四五罷成候
と申上候へハ、物をかきさん用も仕候哉と御尋二付、少々物も書
算用も仕候と申上候へハ、親茂右衛門何ツ斗二候と御尋二付、五
十七八罷成候へ共息災二候と織右衛門様御取合二候、村々庄屋
共用事無之候ハ、鯖江へ参候事無用之由我々ニも其通被仰付候
一織右衛門様へ申上候ハ、何れ殿様御着相待罷有候得ハ村々庄屋共
之儀ハ心々ニ可仕由申上候

同十九日

一殿様鯖江御着二付我々も鯖江参、上領与頭衆迎候而諸事聞合申候、
其上同心ニ而藤介様罷出御悦申上、扱金津二而殿様御意被遊候後
山茂右衛門義不残申上候
(石田代官)
一馬場源兵衛様此辺御検見二御通り被遊候

同廿日

一近日御検見二殿様御出候節、後山茂右衛門方ニ御泊り可被遊由被
仰出候二付、然ハ茂右衛門ニ御目見へ被仰付被下候ハ、呼寄申度
と申上候へハ、追付御泊り之節御目見得も被仰付事と被仰候得共、
乍居御目見得仕事憚多と申上候へハ、勝手次第□□御意二付喜ハ

を後山へ遣し、明廿一日二茂右衛門・平介同道二而参候様ニと申
遣し候

九月廿三日御検見二御出之村付

一千福村・池上村・下中津原村・別所村・妙法寺村・白崎村・春日
野村御休、清水村・東野村御泊り、燧村・久喜村・長沢村・馬上
免村・古木村御休、温谷村・小倉谷・瀬戸村・杣木俣村・阿久和・
中小屋村・金粕村・堂村・宮谷村・上野村・牧谷村御泊り、鋳物
師村・上平吹村・向新保村・今立郡之内宮谷村・野大坪村・上大
坪村・文室村・西袋村御休、中新庄村・馬上免村・下新庄村御泊
り、定次村・中野八ヶ村・舟枝村・橋立村・川嶋村・新堂村・庄
境御休、高木村・赤坂村・別司村・小坂村・西袋村・金谷村・寺
中村・尾花村・河内村・川和田河内村・戸口下村・戸口中村御泊
り、上戸口村・水海村御休、松ヶ谷村御泊り、千代谷村・東青村・
西青村・籠懸村・蒲沢村・稗田村・宝慶寺村・木本領家村・猪嶋
村御泊り、下郷村・森政領家村・開発村・友兼村・野中村・今井
御休、西山村・稲郷村・猪嶋御泊り、北御門村・上麻生嶋村・森
目村・東大月・西大月村・小矢戸村・大矢戸村・下荒井御休、嶗
寄村・大袋村・蓬生村・此嶋村御泊、杉俣村・西光寺・船寄村御
泊り、宮領村・田嶋村・河和田村・御油田村御休、玄女村・里竹
田村・南正田村・川上村・後山村御泊り、清滝村・鎌谷村・棚村・
清間村・伊井村・青野木村・西方寺村・宮谷村御休、笹岡村・前
谷村御泊り、清王村・赤尾村・横垣村・井江葭村御休、国影村・

牛山村・城村・同新家村・西谷村・舟津村・十楽村・田中々村御泊り、番田村・重義村・谷畠村・河間宮前村・藤沢村・上新庄村御休、徳分田村・大針村・舟寄村御泊り、北横地村・中筋村

但鯖江御出被遊候而九御泊り目二舟寄村

一坂井郡四拾貳村之庄屋鯖江へ参候二付、村々庄屋中之名書仕藤介様へ指上候へハ、則殿様へ御披露被成候得ハ、寄特ニ参候得共重而付届之分ニハ参間敷候、早々明日ハ可罷歸由被仰出候

一村々庄屋替り之事御窺申上候へハ、替り申品々并ニ跡庄屋たれを願候と書載書付指上させ可申候、但跡庄屋之事吟味之上書付出させ申様ニと被仰付候

一十楽村・西谷村作毛之書付指上候

九月廿一日

一赤尾村十右衛門おい、すきと申女之男子六と申者、少々之盗事と仕候由ニ而親一門共勘当之書付指上候二付、彦五郎を頼候而指上させ申候

一鯖江を罷歸り候

一寅初納金村々割付指上申候、同後山組之書付も指上申候

一於前谷松竜寺、敦賀大信院之什物之古物并法物等、九月廿五日の七日之間開帳仕度候と願狀松竜寺を被指上候二付、鯖江へ御取次申上候へハ、申分出入無之様ニ申渡し開帳為仕候様ニと被仰付候、留なし

一宗旨御改鯖江を被遣候案紙帳、後山平助ニ相渡し申候

同廿二日

同廿三日

一宗旨御改帳、当十八日ニ老本松ニ而村々庄屋中へ案紙帳を見せ段々申渡し候得共、為念之帳面写し配符を添村々へ遣し申候

同廿四日

一舟津村弥次兵衛庄屋替り跡庄屋徳兵衛罷出候由、然共弥次兵衛元与斗ニ庄屋ニ相立□□清右衛門元与之庄屋仕候事成不申候と、断ニ弥次兵衛・徳兵衛・太郎右衛門・次右衛門参候、長百姓ハ弥次兵衛相勤可申由二候

一西方寺村太郎左衛門・市郎兵衛出入有之由ニ而書付持参仕候得共、御立見前之事二候へハ御用ニ取込、其上庄屋長百姓面々共二時分二候得ハ、先取廻し仕可然由申聞候へハ、左様二候ハ、先書付指上申間敷と申罷歸り候

旦那御儀昨廿三日南条郡村々御巡見被成候、坂井郡筋へハ来月初御移可被成候、然者大野郡比嶋村御泊る舟寄へ御越之日、北横地・中筋御覽被遊筈ニ相極候間、其心得可有之候、尤坂井郡中御仕廻舟寄ニ御泊、直ニ鯖江へ御帰被遊積り二候、為心得如此候

一兼而申渡候通御定之外馳走ケ間敷儀停止候、於村々御通之節御

供之下々者不及申、駕籠之者二至迄何二而も一切振舞申間敷候、若隱候而酒二而茂出し候ハ、振舞候本人ハ急度御仕置被仰付、其上与頭迄不届之御詮儀可被仰付候間入念村々へ被申渡、少成共疑敷儀無之様可被相心得候、其表^(百姓力不心得力)□□共□□□□二可有之候相察候付猶又如此候、石川伴右衛門・杉山織右衛門右兩人御供、我等儀ハ御留主被仰付候、以上

九月廿四日

青山藤助 印

与頭中

追而備後国於福山ニ奥津滝右衛門殿・横田数右衛門殿の書状
壺封参候付差越相届候

一筆申入候、先以其許相替儀無之各無事之由珍重ニ存候、然者且那御儀先月九日福山へ御着御機嫌能被成御座候、且又去御年貢納下り之儀助左衛門方の此度委細申来候、尤少々未進有之村も候へ共、何茂別而被精出候与相見、大面相済且那不浅御満足被思召候、依之右之趣我等共方の宜申遣候様ニ与被申候ニ付如斯御座候、恐惶謹言

九月六日

横田数右衛門 判

奥津滝右衛門 判

与頭中

別紙ニ而申入候、然者其許舟寄陣屋ニ有之候置八拾四畳、善右方へ預ヶ置候分附渡りニハ罷成間敷候物ニ候間、御払被成可然由何も被申候趣細助左衛門の申来候、右之内五味小左衛門殿

御代郷方の出候置有之様ニ覚候、左候者其分ハ郷方へ相返し、相残此方へ分ハ乍御六ヶ敷早々被相払、代銀懸屋忠兵衛方へ被相渡、忠兵衛方の爰許我等共方へ遣候様ニ御申通可給候、為其如斯御座候、以上

九月六日

横田数右衛門 印

奥津滝右衛門 印

与頭中

右備後福山の被遣候式通之御状、後山の参候ニ付布目へ遣し申候

九月廿五日

一舟津村庄屋弥次兵衛替り候而跡庄屋徳兵衛相立申度由願ニ付、徳兵衛村中老二人而相勤候様ニと申聞候得共、弥次兵衛元与之分ハ相嘴可申候、清右衛門元与之分相嘴候事成申間敷と申候、清右衛門元与之内九左衛門・孫右衛門其外孫右衛門一門共ハ、清右衛門与庄屋立申候共付申事成不申候と申候、其外小百姓ハ指而庄屋ニかまい無之由申ニ付、九左衛門・孫右衛門として庄屋老人相立可申候、其外として庄屋老人相立可申候、又九左衛門・孫右衛門納得ニ而相残者共と一所ニ成庄屋老人相立候共、若又徳兵衛老人ニ相極候共、面々勝手次第ニ可仕候、とかく庄屋なしニハ成不申候間今明日之内ニ相極候而、明後廿七日ニ断可申来由申渡し候一井江葭村庄屋之事御料初年つゝ辰迄三年之間義右衛門庄屋、已の未迄三年ニ郎右衛門庄屋、申の戌迄三年之庄屋義右衛門、但西ノ

年々義右衛門・二郎右衛門・長左衛門三人之長百姓老年替り二庄
 や可相勤由相談ニ而、酉ノ年ハ義右衛門自分「一」長左衛門
 庄屋可仕処、義右衛門を長左衛門に頼候由にて義右衛門相勤候由、
 亥年ハ二郎右衛門、子年長左衛門、丑年義右衛門、卯ノ年二郎右
 衛門、来卯年長左衛門庄屋番ニ候間庄屋被仰付被下候様ニと村中
 の願状上ケ候ニ付□、長左衛門ニ様子申聞候処庄屋相勤候事成間
 敷と申切候ニ付、二郎右衛門方々右願状を以御了簡を請申度と訴
 申候

一 国影村庄屋長百姓として老年替りニ相極候由ニ而、来卯年次左衛
 門ニ庄屋被仰付被下候様ニと村中願指上候、次左衛門も判形仕候、
 留書有

同廿六日

一 田中々村才兵衛方ニ御検見之節御泊り可被遊由ニ候間支度可仕候、
 そうし人足等入申事ニ候ハ、田中々村・十楽村として被相勤候様
 ニと、与右衛門・十楽与三右衛門ニ申渡し罷歸り候

同廿七日

一金津米屋平右衛門申来り候ハ、大文字や弥三兵衛先年ハ重義村へ
 銀子をかし置、其利銀又ハ村酒手等算用仕、不足仕候へハ現銀を
 出し重義村惣田をかい田ニ仕来り、惣田之儀ハ弥三兵衛方々下シ
 申候、然処去暮ハ酒手之算用も不仕、貸銀利立も不仕、買来り候

惣田も当春ハ支配不為仕候ニ付、布目彦兵衛殿へ御断申埒御明可
 被下候処、此度組かへニ□埒明不申候間埒明申様ニと申来り候、
 右□□兵衛詮義被致候ハ、其様子彦兵衛物語承候而、何とぞ埒明
 候様ニ可仕と申候

九月廿七日

一 舟津村清右衛門元組庄屋極不申候ニ付、孫右衛門・九左衛門・清
 左衛門・清右衛門・徳兵衛五人を呼寄候而様子承候処、十兵衛・
 喜蔵・新右衛門・作右衛門・又兵衛・五右衛門・長右衛門・市右
 衛門此八人徳兵衛組ニ成共、又ハ誰庄屋ニ御立候共少も構無御座
 候、九郎右衛門・孫兵衛式人ハ弥次兵衛元組候へ共、徳兵衛右両
 人之者共与へ付申事成申間敷と申ニ付、右八人同前ニ申候由孫右
 衛門を以申断候、孫右衛門・彦右衛門・伝右衛門・助右衛門・吉
 右衛門此五人ハ最前弥次兵衛庄や仕候事申間敷と申ニ付、弥次兵
 衛庄屋不仕候へハ村之内昆乱仕候ニ付、先当分物事無事ニ可仕た
 め、是非共庄屋仕候事成不申候ハ、孫右衛門庄屋可仕候間、先当
 分ハ右之通ニ仕置候様ニと申候へハ、清左衛門・清右衛門方々本
 組へ申触、庄屋別ニ立可申と申ニ付、依之孫右衛門も庄屋不仕、
 弥次兵衛も急に庄屋上ケ申候、然ハ孫右衛門一門共五人之分ハ弥
 次兵衛と一所ニ徳兵衛組へ付可申候、若徳兵衛与付申事成不申候
 と弥次兵衛・徳兵衛申候ハ、孫右衛門庄屋可仕と申出候、右八人
 と九郎右衛門・孫兵衛・清左衛門・清右衛門・九左衛門此拾三人

之内ニ而相談いたし、相極候様ニと色々申候へ共庄屋立申者無之候ニ付、一日ニ而も庄屋なしニ指置候事成不申候間、清右衛門元庄や之事ニ候へハ触なかし等ハ仮リニ相勤候様ニと申付候へハ、九左衛門・清左衛門兩人ハ清右衛門与ニ成中間敷と申ニ付、如何様ニ可仕哉と相尋候得ハ、徳兵衛与へ付可申と願候ニ付徳兵衛其段申聞候へハ、右兩人共ニ与へ付申事成不申候と証文出し候ニ付、右兩人方々も是非共徳兵衛付可申と口書出し候ニ付、徳兵衛を庄やニ極候か又兩人として庄屋相立候か、明後日迄之内ニ埒明可申候、庄屋なしニわかま、可仕ためニ色々物好ミ之様ニ聞へ候、庄屋なしニ何角延引致され候ハ、其段鯖江へ申上候ハ、御詮儀可有候間其心得可有候と申断返し候

一石田小検見衆此辺御通り被遊候

同廿八日

一北村当立毛之内無毛改ニ兵庫武兵衛殿被参候、五兵衛・八兵衛・七兵衛三人分上田貳反分米四石四斗、中田四反半分米九石四斗五升、下田三反分米六石、田合九反半分米拾九石八斗五升、帳面に北村之者共并入作之者共不残判形いたし候

同廿九日

一組中庄屋中呼寄、御検見御廻り之事、同宮谷村御昼休、井江葭村御昼休、田中々村御泊り之事申渡し候、田中々村御泊り之支度諸

事田中宇右衛門・十楽与三右衛門ニ為請込申候

一高百石ニ銀壹匁五分ツ、出申様ニと申渡し候、十楽・田中々村・番田・重義ハ中村才兵衛方へ被渡候様ニと申付候、井江葭村・宮谷村へ出シ被中間敷と申渡し候

一初納金弥九日切ニ不残相済被申候様ニと堅申付候

一舟津村弥次兵衛元組徳兵衛跡庄や願状上ケ申ニ付請取候、清右衛門元組之内拾人□□り庄や清右衛門被仰付被下候様ニと証文取置候、清左衛門・九左衛門ハ庄や極不申候、孫右衛門ハ徳兵衛ニ預ケ分ニ申付候

一赤尾・番田・田中々村・城、願状上ケ候ニ付請取置申候

同晦日

一清王村・青野木村願状指上候付請取候

一殿様明朔日ニ比嶋村へ舟寄へ御越之由、善右衛門方へ後山へ申来り候

十月朔日

一殿様舟寄へ今日御越被遊候付舟寄へ罷越、長崎町口ニ而御目見得いたし、織右衛門様・伴右衛門様へ御意得、御廻り之様子申上罷歸り候

一前谷村武右衛門と笹岡へ人足壱人福井へ遣し候

一前谷村へ人足壱人三国へ遣し候

同二日

一横垣村二郎兵衛・国影茂左衛門・次左衛門参候而、さいせん申渡し候井江葭村長左衛門庄や之事申聞候得ハ、来卯年庄や可仕由請合申由断申来り候

一殿様後山へ御泊り被遊候、雨天ニ而も明日自分方へ御こし可被遊織右衛門様被仰付候ニ付、三日御廻り村々へ申ふれ候

十月三日

一殿様後山村茂右衛門方御発駕被遊、清滝・鎌谷・枰・清間・伊井・青野木・西方寺・宮谷・笹岡村(来脱力)前谷村御泊り、石川伴右衛門様・杉山織右衛門様同御家式人、若党衆四人、御台所御中間式人、御茶飯取御道具持御中間式人、以上拾四人、御駕之者四人者上下之者ニ而御支配下としてやとひ申候、当村市兵衛ニ泊り

同四日

一米八升五勺 上下拾四人、壹人ニ五合ツ、

内壹升五勺 但壹割半減米

代貳百貳拾文 但丑御直段壹石ニ四拾五匁六分かへ

銀壹匁ニ六十文かへ

一大根拾八本

代九文

一牛蒡九本

代六文

一芋五合

代四文

一とうふ壹丁

代九文

一山芋四本

代拾六文

一蕪菜拾本

代三文

一炭三百匁

代九文

一木銭貳百九拾三文

上七人壹人廿七文、下八人壹人ニ拾三文

一塩噌代八拾四文

上下拾四人、壹人ニ付六文ツ、

一草鞋拾六足

代四拾八文

ノ七百貳拾九文

右ハ当寅之立毛為見分と御出御泊り被遊御入用品々、銘々代物御払慥ニ請取申候、右書面之外何ニ而も一切遣不申候、然上ハ右入用と申掠少成共村中へ割懸ケ申間敷候、若割懸ケ申段後日ニ御聞及候ハ、何分之曲事ニも可被仰付候、且又御家来中押買押売被致候哉、又ハ代物払不被申候か、其外非分義御座候ハ、有躰ニ可申上旨急度被仰渡承知仕候、左様之「」無御座候、為後日証文指上申候、以上

刁十月四日

前谷村御宿 二郎左衛門印

同庄や

市兵衛印

同長百姓

六兵衛印

石川伴右衛門殿

杉山織右衛門殿

一米貳升三合 内三合壹わり半減米

代六拾五文

右ハ今四日御昼休之焼飯ニ仕候代錢請取申候

十月四日

右三人印

右御兩人

一殿様前谷村御発駕被遊、清王・赤尾・横垣・井江葭・国影・牛山・城・新家塩浜へ御出被成、西谷御見廻ニ而舟津・十楽・田中々村才兵衛方ニ御泊り被遊候、右御人数ニ而御駕者と右衛門方ニ泊り、御昼休井江葭村山ニ而被遊候

同五日

一米八升五勺 内壺升五勺突減、御人数右同断

代貳百貳拾文

一大根拾五本

代七文

一牛蒡拾壺本

代七文

一とうふ壺丁

代九文

一にんしん壺わ

代三文

一かふな拾本

代三文

一ねき貳わ

代四文

一鯉壺本

代百貳拾文

一□ミ貳百匁

代六文

一木錢貳百九拾文

右御人数同断

一塩噌代八拾四文

右同断

一わらんす拾六足

代四拾八文

ノ八百三拾三文

外

一蕎麦粉貳升三合

代四拾九文

右文言同断

十月五日

田中々村_{庄や長百姓}印

右御兩人

惣錢合壺貫六百八拾文 前谷・田中々村両村共ニ

此代金貳分請取、此錢壺貫八百六拾八文

内百八拾八文過錢ニ而返上いたし候

但此錢田中々村才兵衛を取かへ

右之金子ハ我等預り置申候

一殿様田中々村御発駕被遊、番田・重義・谷畠・河間宮前・藤沢・上新庄・徳分田・大針御覧被遊、舟寄惣右衛門方ニ御泊り被為成候、御人数右同断、自分義ハ水野数馬様御家来有間九郎兵衛殿舟寄鍋屋半左衛門方ニ御泊り被成候付、御用之御使被仰、中番渡り舟場の舟寄へ参、右九郎兵衛殿御口上申上、五本村迄罷歸り御返事申上、又舟寄へ参候而善右衛門方ニ泊り罷有候

同六日

一殿様・舟寄を御発駕被遊鯖江へ御入被遊候
一杉山織右衛門様・石川伴右衛門様小検見ニ御残り被遊、舟寄村・東沖・宮領・田嶋御見分被成候を様子見候而、夫を自分ハ罷歸り

村々へも右申付候九日切之金子十二三日時分迄指延、重而申触次

第持参候様二と申遣し候

一布目彦兵衛方へ元与拾三ヶ村水帳之写・内検帳之写并子秋木内八
九郎様へ指上候地免書付之留、かし被申候様二と手かミ遣し申候

一舟寄二有之候、疊八拾四疊之内、八疊善右衛門取分、貳拾三疊与兵（六倉）

衛樣御分入札ニ可成分、殘而五拾三疊小左衛門樣御分与頭共方へ
わり取可申筈ニ候故、九疊自分へ当り、右五拾三疊之御銀五味小

左衛門様を御出し候二付、村々へハわり渡し申間敷筈二候

十月七日

一織右衛門様・伴右衛門様六日後山村茂右衛門方二御泊り、今日御廻り村々ハ清滝・鎌谷・櫛村・清間・伊井・前谷村御泊り被成候

一喜多嶋岡右衛門様鯖江_ゝ今晚御越被成候

一布目彦兵衛此中石田二罷有候内二、当寅之御年貢本途米之分不殘

大津廻米二被仰付候由二而、石田御下惣百姓代として四郡之組頭

中願狀指上候由写し被指越候、并二夫御赦免訴訟之義源兵衛様へ
（馬場・石田代宣）
 申上候へハ、被仰渡之御口上覚書、今度又指上参候願狀之写被指

越候

一青山藤介様御用之事有之候間、三人之与頭共之内壺人明八日九

ツ時分ニ鯖江參候様ニと被仰越候義、岡右衛門様御物語ニハ、大津廻米之義ニ付上領与頭共不殘被召寄被仰渡筈之処、何れも相談も可有事之様ニ被仰候ニ付、茂右衛門明八日ニ鯖江可參由ニ候

同
八
日

伴右衛門様前谷の鯖江へ御歸り被遊候、舟寄迄青野木村之馬二而御越被成候

一織右衛門様・岡右衛門様御検見、笹岡・宮谷・青野木・西方寺・

清王・赤尾・横垣・井江葎、二郎右衛門方二御泊り被遊候

一米三升四合五勺
上下四人
御泊り一人五合
御昼休一人貳合五勺

此代九拾四文
御直段右同断

一大根・牛蒡・☐☐共二代八匁(酢炭力)

一木錢百貳拾四文、御上貳拾七文、下拾三文、御昼休八半分

一塩噌代三拾六文

一わらんし四足代拾貳文

式百七拾四文

右文言ハ殿様御泊り証文之文言同断

前谷村与頭

十月八日

二
郎
左
衛
門
印

石川伴右衛門殿

喜多嶋岡右衛門殿

杉山織右衛門殿

同九日

一 錢貳百七拾四文 岡右衛門様
織右衛門様

井江葭村 二右衛門
義右衛門
長左衛門
太郎右衛門

米野菜代・木錢・塩憎代

文言右同断

一 国影・牛山・城村二郎左衛門方ニ而御昼休、西谷・舟津村御検見

被成、舟津清右衛門方ニ御泊り

一 小木仙右衛門様鯖江へ御呼被成候、定而御身躰之事相済可申と善

右衛門方へ被申越候

同十日

一 錢貳百八拾六文 岡右衛門様
織右衛門様

舟津村 清右衛門
徳兵衛
孫右衛門

御扶持米・野菜・木錢・塩憎代

文言右同断

一 十楽・田中々村・番田・重義・谷畠・河間宮前・藤沢御検見被遊、

藤沢村与介方ニ御泊り被遊候

一 重義村かり立も不仕立毛不残かり上ケ申ニ付御せんき、重義村へ

願状御取被遊歩かり不被成候、右願状之留有

同十一日

一 昨晚御兩人様へ御いとま乞仕布目へ参、それを金津御屋敷へ参、

(大宮茂富・福井藩金津奉行)
彦右衛門様昨十日二江戸へ御歸り之御悦申上罷歸り候

一 後山茂右衛門昨晚舟寄迄鯖江へ歸り、今晚御兩人様御目二かゝり、

大津廻り米之御訴訟之事段々申上候由被申越候、其外用事共不申
越候

十月十二日

一 岡右衛門様、前谷村清左衛門酒諸道具御改ニ舟寄へ御越被遊候処、

清左衛門何之断もなく新酒造桶之分ハ不残改候ニ付、酒舟へ揚酒

を入隠シ置候得共宥免ニ而見のかし候間、其段堅申聞せ以後相嗜

候様ニと被仰付候ニ付、伊兵衛を以清左衛門急度申聞せ候、夫へ

岡右衛門様舟寄迄御歸りニ付、自分も同道ニ而舟寄へ参候、織右

衛門様ハ北横地中筋検見被成候

同十三日

一 織右衛門様・岡右衛門様舟寄へ鯖江へ御歸り被成候、与頭共も近

日鯖江へ可参由申上候へハ、大津御廻米之願状出来候ハ、与頭判

形入可申候、其節参候様ニと被仰付候、庄屋共ハ参候ニ及申間敷

由被仰付候、舟寄へ歸り候

一 初納金村々へ請取候、仮通相渡し申候

一 錢三拾四文、昨十二日岡右衛門様御昼休被成候雜用銀御渡し候ニ

付手形指上候

一 舟津村清左衛門・九左衛門初納金指上可申由ニ而持参仕候得共、

庄屋無之百姓屯人ツ、之御金請取申事成不申候、鯖江ニ而様子申

上候而御指図次第ニ可仕候間、それ迄面々方ニ被指置候様ニと申

付候

一当御検見之節村々当作又ハ百姓困窮之書付指上候ニ付、御取次申上候へハ右御兩人被仰候ハ、願状を村々〆指上候を請取候上ハ、其趣段々吟味之上御代官様へ可被仰上候処、左様之吟味もなく願状斗取置候而も無^(詮)全事ニ候、吟味を請候而も願状指上申度と申村有之候哉、重而能吟味懸候様ニと被仰候ニ付、其段村々へ申聞候へハ、御吟味被遊候とても訳て可申上様も無御座候間願状指上申間敷と申ニ付、村々之様子我々方〆覚書指上候様ニと被仰付、書付指上候、留有

同十四日

一前谷村清左衛門酒桶当春神田政右衛門封印被成候を、一昨日岡右衛門様封印御仕替候ニ付、政右衛門様封印切申由断ニ候ニ付、権右衛門立合ニ遣し申候

一高九百貳拾貳石八斗五升 田中々村
此家四拾軒
内

三百六拾八石 宇右衛門組
家拾七軒
百五拾九石 与右衛門組
家拾貳軒
三百九拾五石八斗五升 才兵衛組
家拾壹軒

一西方寺村太郎左衛門、同村市郎兵衛と出入有之由申断候処、庄屋長百姓方〆申出候ハ、太郎左衛門と申者出生ハ西方寺村之者ニ御座候得共、細呂木入婿仕貳拾七年以前〆細呂木ニ罷有、此出入可

仕手立ニ妻子・家共ニ細呂木ニ指置、当春西方寺へ参借宅ニ而持高を作り罷有候、然ハ西方寺村之者とハ申かたく候ニ付、宗旨御改帳ニも載不申候と相断候ニ付、其段太郎左衛門ニも申渡、西方寺村之者とか細呂木之者とか訳立候様ニと申渡し候

同十五日

一金貳百四拾両貳文 初納金

内百九拾三両壹分 前谷武右衛門ニ為持鯖江へ遣ス
残

四拾七両壹分 不足金

内

貳拾八両貳分 笹岡村

四両 宮谷村

四両壹分 青野木弥次兵衛

壹両壹分 同五十郎

壹分 同権兵衛

三両壹分 清王村

五両壹分 舟津村

貳分 田中々村

ノ

一其節夫米訴訟ニ付御尋被遊御義有之候、且那樣明十六日石田へ御越被成候間、明十六日昼前ニ石田へ三人共ニ可被参候、尤不参有間敷候

十月十五日

青山藤介印

坂井郡与頭中

此手紙早々相廻し留り可被返候

右御廻状返上申候

一右之御廻状ニ付夜通シニ舟寄迄参候而夫石田へ参候

同十六日

一石田へ参候へハ両殿様御参会被遊、石田御下□布目彦兵衛・野中五左衛門・石田甚右衛門・鯖江「」・舟寄善右衛門・後山平介右六人被召寄、去々年子十月与兵衛様へ指上候訴状御読被遊段々

(六倉・舟寄代官)

御吟味之處、一々坂井郡百姓困窮之趣申上候へハ、御両殿様被仰聞候ハ、此義ハ大切成事ニ候得共年来百姓願之事ニ候得ハ、御相談之上被仰上可被下候得共、相叶可申事トハ不被思召由被仰聞候、申上候ハ理非ハ各別百姓困窮ニハ紛無御座候、御相談之上相叶不申候とても少御恨無御座候、御慈悲を奉仰候と申上候、并此度被仰付候大津上り米之百姓難義之由、最前ハ申上候義尤之様ニ被思召候間、御訴訟被仰上可被下候、併何之子細もなく御免候様ニトハ難被仰上候間、半金納ハ跡々之通、半米納之内御廻米ハ御割付之通、其外米納之分金納並式勿高二指上候様ニ可申上候哉と御尋ニ付、何様共御請可申上候之間、大津上り米御免被下候様ニト一^(純)等ニ申上候へハ、然上者相残中ケ間之者共へも其段申合候様ニト被仰付御前退出仕、中ケ間三人共鯖江へ参候而、今立郡下新庄平

左衛門方へ書状遣し呼寄候而、右式勿高御意之趣密々ニ申談候

一前谷村武右衛門ニ寅初納金百九拾三兩壹分爲持、昨十五日ニ鯖江へ遣し候処無相違指上御通帳請取、其外用事候而十七日ニ罷歸り候、上下三日ニ而罷歸り候

同十七日

一舟津村清左衛門・九左衛門兩人共二両庄屋組はつれニ罷成候処委細証文取置候、依之右兩人共二御陣屋召連罷出、兩人之内ニ而庄屋立させ可申ため、昨十六日ニ鯖江迄参候様ニと申付候ニ付、昨日参候而同村孫右衛門を以申候ハ、徳兵衛ニ村中并清右衛門共ニ佗言仕、徳兵衛組へ入申筈ニ仕候間、御陣屋へ被仰上候事御免被下候様ニと舟寄善右衛門・後山平介を以断申ニ付、孫右衛門申通ニ仕候、右兩人刁之初納金四兩三分、清右衛門与不足金貳分、五兩壹分請取、小手形式枚孫右衛門ニ相渡し申候

一殿様御前へ、善右衛門・平介・自分共ニ夫米訴訟之義六尺給請可申事ニ候ハ、其段を訴状載可申候、其外訴状之文談永々候間引詰書上候様ニと被仰聞、其外御内意共委細被仰聞候ニ付而奉畏罷出候、右之段々下新庄平左衛門承候而、南条郡・今立郡共ニ壹所ニ願状指上申度由藤介様へ御内意承候処、願二候ハ、如何様共被仰候付、牧谷太左衛門・戸口弥左衛門方へ申遣し、是ニ而訴状調上ケ申度と被申ニ付、布目彦兵衛も明日是迄参候而一致之相談ニ可仕と存、彦兵衛方へ書状遣し申候

一 獵師之外獵仕間敷との証文案紙、織右衛門様を被遣請取候

一金四両 宮谷村

一金三両壹分 清王村

一金壹分 青野木権兵衛

一金四両壹分 同弥次兵衛

一金貳分 田中々村

一金壹両壹分 青野木五十郎

一金七両 笹岡村

ノ貳拾両貳分

右初納金村々不足権右衛門請取、笹岡村五左衛門青野木村人足

二鯖江へ遣し申候、此外二金貳拾壹両貳分笹岡村、五両壹分舟

津村、都合四拾七両壹分上納仕御通帳付初納金相済

一 重義村・井江葭村・国影村・舟津村・赤尾村・城村、右六ヶ村庄

屋替り願状藤介様へ指上申候所、何れも百姓願之通二仕候様にと

被仰付候

一 西谷村御領最寄かへ之願状之義、藤介様へ申上候得ハ、当年ハ相

叶間敷候間来年願状指上候様にと被仰付願状御返し被遊候、弥来

年被仰上被下候様にと申上候

一 宮谷村義太夫納庄や二当年江戸へ参候处、早速罷帰大分損料有之

由願状指上候处、藤介様被仰聞候ハ、南条・今立之納庄や、石田

御下之納庄やも其段願上ヶ候二付、高木三左衛門様と御相談之上

四両宛増給とらせ申答二申合候、然共義太夫・長田伊右衛門義ハ

(云倉・舟寄代官)
与兵衛様二而御勘定被遊答二候間、右之与頭中ヶ間と申合金四両

ツ、増給とらせ申答二相極、則三左衛門・藤介方へも断申、右之

通二相極候段与兵衛様御役人中へ書状遣し候様にと、善右衛門・

平介・自分共二被仰付候

一 長貳寸五分上々けぬき壹対、はさミ上々貳丁、是ハ御前を之御用、

長三寸代銀之けぬき四対ハ是ハ御侍衆茂兵衛殿御詔、長三寸上々

けぬき壹対、長五寸上々はさミ壹丁是ハ藤介様御詔二候处、舟寄

善右衛門先二被帰候二付「」段々委細申遣し候

「」二付彦兵衛参候様にと申遣し候

同十八日

「」状書直シ申二付、自分・平介兩人鯖江二「」善右衛

門へ加州へ被遣候御状之義「」への□^(けカ)ぬきはさミの事二舟寄

へ「」

一下人喜ハも宿返し申候

十月十九日

一 布目彦兵衛方へ夫米願之儀二付相談之事有之候二付、鯖江へ参候

様にと十七日二申遣し候へハ、彦兵衛ひま入有之二付不参候而下

兵庫村武兵衛・源左衛門被参候二付、訴状之段々下書相談いたし

右兩人石田へ被帰候

同廿日

一 夫米願之訴状相認候而指上候得ハ、石田源兵衛様鯖江へ御越被遊候而御両殿様御覽、文談等残所無之由ニ而訴状御請取被遊候ニ付、此方請状之下書高木三左衛門様へ言伝候而、石田与頭中へ遣し申候、留書有

一 藤介様・岡右衛門様・園右衛門様・織右衛門様・伴右衛門様・元右衛門様・友左衛門様・岡右衛門様へ御暇乞、訴状納り申候御礼申上罷歸り候

一 舟寄ニ残り有之候陣屋入札為致候様ニと藤介様被仰候由、友左衛門様被仰聞候

同廿一日

一 鯖江へ罷歸り候ニ付当廿三日ニ庄や長百姓印判持参候様ニ申触候、殺生之証文御用ニ候

同廿二日

同廿三日

一 村々庄屋長百姓呼寄殺生之証文判形取申、并夫米願之事訴状指上候段々申聞、村々願状ニ判形取申候、大津上り米之事御訴状被成被下候由申聞候、右両様御訴訟之義諸事相談相極候

同廿四日

一 殿様廿六日ニ江戸御発駕之由彦五郎方へ申越候ニ付、惣庄や代として宮谷義兵衛・井江菟長左衛門・国影次左衛門・舟津村徳兵衛・重義村庄右衛門此五人鯖江へ被参候様ニと申遣し候

同廿五日

一 鯖江へ参候へハ、何れも仲ケ間不殘御目見得被仰付、大津上り米之訴訟之義ニ付、与頭共江戸へ訴訟ニ参不申候而不叶事も可有由被仰聞候ニ付、御内意被仰下候様ニと被申上候

一 寅免状御渡し被遊候ニ付御役人様方へ御礼ニ罷出候

一 壱ツ	前谷村	一 貳ツ四分七厘	笹岡村
一 貳ツ五分三厘	宮谷村	一 壱ツ八分八厘	青野木
一 五分八厘	西方寺村	一 貳ツ四分貳厘	清王村
一 壱ツ四分三厘	赤尾村	一 壱ツ三分五厘	横垣村
一 貳ツ五厘	井江菟	一 貳ツ五厘	国影村
一 貳ツ壱分五厘	舟津	一 壱ツ五分	牛山村
一 壱ツ貳分	城村	一 五分	新家
一 五分	西谷村	一 八分	十楽村
一 七分	田中々村	一 七分	番田村
一 七分三厘	重義村		

同廿六日

一 殿様江戸へ御発駕被遊候ニ付、坂井郡惣庄屋代として壱与ハ庄屋

五人宛御暇乞ニ罷越候ニ付、前谷組右之五人罷出、鯖江ニ而御暇乞申上候而罷歸り候、但右之内宮谷村義太夫ハ鯖江大割之為立合残し置候、次ニ四郡組頭中ハ松森迄御見送り申上鯖江へ罷歸り、御役人様方へ御立之御悦申上候

一何れも相談にて大割可仕由ニ候

一廿七日ニ殿様御料理可被下由被仰聞候

同廿七日

一団右衛門様ハ茂右衛門・善右衛門ニ御内意被仰下候ハ、二郎左衛門・清左衛門中折仕候様ニ可被仰聞由ニ候付、友左衛門様迄参团右衛門様ハ初而被仰聞候御事異背申上候も迷惑仕候、若又如何様ニ被仰付候共於此義ニ御請難申上候間、其段团右衛門様へ被仰達被下候様ニ申上候へハ、就夫御内談候而御止被下候

一牧谷六郎右衛門・下新庄平左衛門・戸口弥左衛門・松ヶ谷勘兵衛・猪嶋次兵衛・舟寄善右衛門・後山茂右衛門・平助・^(前)谷二郎左衛門以上九人御役人様御「」候而、御料「」

□^(三)牧谷与友左衛門様、下新庄組園右衛門様、戸口組・松ヶ谷組弐組岡右衛門様、猪島組元右衛門様、舟寄与・前谷与・能州三組团右衛門様、後山組織右衛門様、右之通当「」配人被仰付候

十月廿八日

一於鯖江ニ当夏ハ暮迄之大割仕候、戸口組ニ而赤坂村宗五郎、下新

庄組ニ而舟枝村十兵衛、猪嶋組杉俣村忠左衛門、牧谷組春日野右衛門、舟寄組徳分田村九右衛門、後山組清間奥左衛門、前谷組宮谷村義太夫、其外組頭中不残立合、鯖江門兵衛方ニ而割いたし候一大割之義ニ付舟寄村惣高之内引高之事其外、方々無諸役高之義如何可仕候哉と、戸口弥左衛門・前谷二郎左衛門兩人藤介様へ罷出右之段々御窺申上候得ハ、御役人様方御寄合相談之上可被仰渡由ニ而罷歸り候

同廿九日

一殺生御法度之証文团右衛門様へ指上候

一昨日申上候引高之事、弥左衛門・二郎左衛門御陣屋被召寄藤介様ハ被仰渡候ハ、方々ニ無諸役高有之候得共、詮義之上郷盛懸ケ来り「」共、舟寄村引高之義ハ宿役相勤申子細依而盛方除申義ニ候得ハ、自余とハ各別^(格)ニ候間与兵衛様御支配之時之通ニ可仕候、其外者盛掛申様ニと被仰付候

一御支配所郡々村々内ニ而田方多候而米之有候村々、畑方ニ而米無之村々、又ハ米少シ有之候へ共米引方有之候との訳書上ケ可申候一宗旨御改下吟味仕候処相違無之候、然共清帳未出来不申候、何時ニハ清帳可指上候之旨与頭判形指上候様ニと可被仰付候

十一月朔日

一宗旨御改之義ニ付右被仰付口上書指上申候、尤留書

一坂井郡四拾壹ヶ村米有無村々之訳覚□指上候、留書有

同二日

一鯖江ニ而刁六月二日〆十一月二日迄指引大割相濟候ニ付、与頭并立合之庄屋中帳面ニ判形仕指上申候、宿門兵衛方□□^(三而カ)大わり仕候、但留書之帳有

覚

一金百六拾両

前谷組

式拾両 十一月七日ニ可相納候
内 百四拾両 同十八日ニ可相納候

右渡辺団右衛門様御書付有

一寅暮御陣屋雪垣御入用こも・藁・縄・木・竹、諸色団右衛門様〆御書付被遣候ニ付、宮谷村義太夫立合ニ而鯖江彦五郎ニ誂申候、御書付有、并ニ彦五郎諸色請負手形有

同三日

一鯖江御支配ニ成候而〆以来之坂井郡三組之内盛有之ニ付、宮谷義太夫・清間奥左衛門・徳分田九右衛門立合ニ而、鯖江彦五郎方ニ而昨晚〆今朝迄ニ盛仕廻申候、組々指引別帳ニ記置候
一鯖江〆今日罷歸り候

同四日

一黒毛四歳馬壹疋 半髪 久左衛門(印) 番田村

一黒毛四才馬壹疋 小荷駄 同人

一栗毛槽毛六才壹疋 同 同人

一栗毛五才馬壹疋 同 同人

一鹿毛六才馬壹疋 同 同人

一葦毛六才馬壹疋 同 同人

メ六疋

右ハ板取口通手形出し申候

久 七(印)

一金百六拾両 前谷組十一月二日御割付

式拾両 十一月七日上納可仕分
内 百四拾両 同十八日上納可仕分

此割

金貳両内 壹兩三分 十一月七日切 同十八日切

前谷村

金拾九兩内 貳兩壹分 十八日切

岡村

金拾五兩内 壹兩三分 十八日切

宮谷村

金八兩貳分内 七兩貳分 十八日切

青野木村

金四兩貳分内 四兩 十八日切

〇十郎

金三兩内 貳兩貳分 十八日切

権兵衛

金五兩内 四兩壹分 十八日切

清王村

金貳分内 壹分 十八日切

西方寺村

金五兩三分内 四兩三分 十八日切

赤尾村

金貳兩壹分内 貳兩 十八日切

横垣村

金拾八両壹分内 貳兩壹分 拾六兩 七日切 井江葭村

金拾五両内 壹兩壹分 八兩三分 七日切 国影村

金五両内 貳分 三兩三分 七日切 牛山村

金拾八両三分内 貳兩壹分 拾六兩三分 七日切 舟津村

金貳兩壹分内 貳分 貳兩 七日切 城村

金貳兩内 壹分 壹兩三分 七日切 西谷村

金拾兩内 壹兩壹分 八兩三分 七日切 十楽村

金拾壹兩内 壹兩貳分 九兩三分 七日切 田中□村

金八兩貳分内 壹兩 七兩三分 七日切 番田村

金八兩三分内 壹兩 七兩三分 七日切 重義村

右之通村々庄屋長百姓中へ堅申渡し候

十一月五日

一横田数右衛門様・奥津滝右衛門様備後福山へ御状被下候、与兵衛様福山ニ御越年之由被仰越候、三国河内屋罷帰候ニ付被遣候由布目彦兵衛へ被指越候、茂右衛門方へも被遣状□候ニ付遣し申候

同六日

一村々庄屋長百姓不殘寄合候而万指引割いたし相済申候
一寅御免状村々へ相渡し申候、それニ付当年貢之義御訴訟ハ仕候得共、大津廻リニ可被仰も相知不申候得共、先金子ニ而御取立被遊候、御訴訟叶不申候而大津廻リニ被仰付被下候金子御返シ可被

遊由ニ候間、何とそ米質ニ置申様ニ相談可有候、金子ニ而御取立ニおゐてハ金高へ九分通御取立可被遊由ニ候間、小百姓前兼而其通可被申付候と堅申付候

一当組御支配団右衛門被成候由申渡し候

雪垣人足割

一人足貳拾五人

右ハ陣屋雪垣人足如此ニ候、以上

十一月五日

渡辺団右衛門

前谷村与頭二郎左衛門殿

右之人足当九日・十日兩日之内ニ出し申様ニと被仰付、御急用ニ付鯖江彦五郎方へやとひ出し可申候、日用銀ハ老人壹匁分程ニ而可有候、御支配之御役人様方御吟味被遊事ニ候へハ、直段も随分開合下直ニやとひ出し申由彦五郎方書状添参候ニ付、則与頭中へ此代銀も証文を取、わりをいたし重而可申渡由断申候、彦五郎帳後山へ遣し申候、団右衛門様御書付有

一金貳分内 (壹分盛之内 壹分御年貢) 前谷村

一金三兩貳分内 (壹兩壹分 貳兩壹分) 笹岡村

一金貳兩三分内 (壹兩 壹兩三分) 宮谷村

一金壹兩三分内 (壹分 壹分) 弥次兵衛

一金三分内 (壹分 貳分) 五十郎

一金三分内 (壹分 貳分) 権兵衛

一金壹兩内 (壹分 三分) 清王村

一 高貳千貳百貳石九斗七升壹合	御陣屋附
一 高壹万四千百九拾壹石八斗七升八合八勺牧谷組	
一 高九千九百拾九石貳斗壹升七合三勺	猪嶋組
一 高八千九百拾六石八斗四升四合	下新居組
一 高千五石八斗三升三合	松ヶ谷組
一 高壹万八百七拾八石六升壹合	戸口組
一 高壹貳分内	横垣村
一 金三兩貳分内	井江葭村
一 金貳兩壹分内	国影村
一 金壹兩内	□山村 ^(半)
一 金貳分内	城村
一 金貳分内	西谷村
一 金貳兩三分内	□樂村 ^(十)
一 金三兩三分内	舟津村
一 金三兩内	田中々村
一 金貳兩貳分内	番田村
一 金貳兩貳分内	重義村
一 金貳兩貳分内	割金之内 御年貢金之内
一 金三拾五兩貳分内	拾五兩貳分 拾兩

右之金当十日ニ持参候様ニと村々庄屋中へ申渡し候

一 宝性院御札并進物共村々庄屋中へ渡候

鯖江御支配下組切高付

一 高八千貳百四拾壹石貳斗五合	後山組
一 高八千拾八石六斗四合	前谷組
一 高八千四百三拾五石貳斗四升壹合	舟寄組
内 八百拾四石五斗四升三合三勺	諸役引高
残 七千六百貳拾石六斗九升七合七勺	
都合 高七万八千八百九石八斗五升五合壹勺	
内 八百拾四石五斗四升三合三勺	無諸役
残 七万九百九拾五石三斗壹升壹合八勺	

十一月七日

同八日

一 西方寺村太郎左衛門出入之義、当日ニ鯖江ニをゐて藤介様・団右衛門様へ段々申上候得ハ、細呂木へ参数□□成、西方寺村之者も納得不仕候処住宅為致申事成間敷候間、宗旨帳ニ載申^(三)間敷由被仰付候処、我等鯖江参候而留主之内、庄屋十右衛門と同道ニ而参、市郎兵衛出入和談仕出入不仕候由断申由ニ候故、太郎左衛門呼寄様子相尋候へハ、十右衛門異見ニ而出入不仕候由申^(三)付、出入之義ハともかくも可仕候、村中と納□□村々願状出し不申候而ハ、西方寺ニ住宅為致候事成かたく候間、庄や長百姓ニ相談いたし願状出し可申候、無左^(候ハ、九)□□西方寺ニ指置候事難成由申聞候

同九日

一横垣村二郎兵衛参候而、来卯之春大津廻り二而も江戸廻り二而も、
納才料親子之内誰二而も被仰付被下候様二と願申候

一去免六厘五毛上 池上 一去免六厘上 加戸村

一去免四厘七毛上 布目 一去免七厘 高塚

一去免九厘 菅野 一去免六厘 矢地

一去免壹分 御簾尾 一去免四厘 北野

一去免五厘 北村 一去免一分五厘中川

一去免壹分貳厘 田中 一去免五厘 二郎丸

一去免六厘 北疋田 一去免七厘 十楽



同十日

一金壹分城村遣与右衛門通持参不申候二付、□手形寅御年貢金之内
此金通二付申候

一六日二村々へ申付候金子不残取立候二付、御年貢金貳拾兩其外割
金之内拾五兩貳分請取候、内拾貳兩貳分坂井郡内割金、壹分武兵
衛二自分与中へ進物、権右衛門二相渡明日鯖江へ遣し候、残金貳
兩三分自分預り、外貳分紙・釘かい物代銀権右衛門二渡し候

同十一日

一笹岡宗左衛門・十楽与三右衛門召連、権右衛門鯖江へ当御取ケ之
御札ニ参候、坂井郡与頭三人とも二庄屋式人連参候

一京都愛宕山寿元被参候、子ノ年御初尾金壹分請取之書状感徳院へ

被遣候、子ノ年御札持参、但壹村御札貳折宛、庄屋老人二扇式本
包御札壹包宛、寿元宿金津二而ハ油屋善右衛門、福居二而本町扇
屋勘十郎

坂井郡□村寅御成ケ割付之事

一高貳百五拾五石七斗八合 高辻

内 壹斗貳升 郷藏敷引

拾九石八斗五升 水損引

残貳百三拾五石七斗三升八合

此取貳拾六石三斗三升八合 有高壹ツ壹分壹厘七毛
高壹ツ三厘

外

一銀拾九匁五分 山手

一糠五拾壹表 糠納百石貳拾表宛

此銀拾五匁三分 但壹表三分代

一藁百五拾三束 藁納百石二六拾束宛

此銀拾三匁七分七厘 但拾束九分代

一米拾貳石七斗八升五合 夫米百石五石宛

納合 米三拾九石壹斗貳升三合
銀四拾八匁五分七厘

右之通寅之御成ケ相究条、村中大小之百姓并出作之者迄不残立
合無高下致割符、来極月廿日以前二急度可皆済者也

元禄十一年寅十月

(馬場・石田代官)
馬源兵衛印

北村庄屋

右御免状写取申候

惣百姓

同十二日

一米四石

貸主新屋宗兵衛 借主清王村

一金四両貳分

此質物上平山壺ヶ所 権兵衛

権兵衛
久右衛門
新兵衛
助右衛門

同岡宗山壺ヶ所

久兵衛

同岡宗山壺ヶ所

久右衛門

右ハ卯六月切米ハ三割、金ハ壺割三分定也、添判いたし候

一鹿毛五歳馬貳疋

西方寺村
市郎右衛門（印）

一河原毛四才馬壺疋

同

一栗毛四才馬壺疋

同

一足毛五歳馬壺疋

同

一足毛四歳馬壺疋

同

メ六疋 小荷駄

右ハ板取口通手形出し申候、日付十四日

十一月十三日

一五味小左衛門様御仕立疊四拾八疊舟寄ニ有之二付、与頭共九人として割取申候、我等方へハ六疊取申候、内壺疊ハ買い何れも腐り
疊ニ候

同十四日

一当十一日善右衛門・平介・権右衛門鯖江へ参候得とも、織右衛門

様御普請見分ニ御出被成候付、方々払方も不仕、貳拾両之御金も

指上不申罷歸り候ニ付、権右衛門ニ為持遣し候金子共不残算用仕

此方へ請取置候

一団右衛門様今日能州へ御越之由、是ハ御用米能州へ流寄申義ニ付

御越之由

○一前谷村善右衛門舟寄へ遣ス、是ハ団右衛門様能州御越ニ付御

用候而遣ス

同十五日

一布目村彦兵衛方へ参候

同十六日

一東長田源左衛門・大牧豊左衛門・下兵庫武兵衛・布め彦兵衛、今日三国へ寄合候而夫米願之義ニ付、三国河内や二郎右衛門ニ備後福山ゝ宍倉与兵衛様御内意被仰下候ニ付、段々承候而とかく春中与頭共之内壺兩人江戸へ可罷下相談いたし候、次ニ御米宿之義ニ付、御内意も有之候ニ付石田方与頭中書付指上申ニ付、此方へも下書指遣ス候ニ付中ケ間中と相談可仕由申候、尤下書有

同十七日

同十八日

一古金銀来卯三月迄ニ新金銀ニかへ申様ニとの証文之案紙、藤介様・織右衛門様を被遣候、并内割金之義善右衛門方を被申越候、且又友左衛門様を善右衛門へ被遣候御状此方へ被指越候

同廿日

同廿一日

同廿二日

一舟寄善右衛門・後山平助方を内割之事被申越候得共、とかく廿五六日時分ニ宗旨御改百姓判取、廿九日・晦日両日之内ニ舟寄ニ而寺判取、其上ニ而相談可仕由段々手紙右兩人へ遣シ候

一金壹両三分西谷村を遣し候を、権右衛門請取手形出し不申候由、其金子請取申候

十一月廿三日

一当廿五日・廿六日両日ニ宗旨御改百姓判取可申候、并式番割之御金右両日ニ持参可有、寺判ハ廿九日・晦日両日ニ舟寄ニ而取可申候由村々へはいふ遣し候

一大文字屋弥三兵衛方を重義村へ貸銀有之候得共、相済不申候由断二候、廿六日ニ重義村判人共参候様ニと申遣し候

一金壹分 借主重義村加右衛門・忠右衛門

一銀四拾七匁 かり主右兩人

一銀百貳拾匁 かり主勘兵衛・十右衛門・利右衛門・二郎兵衛・

加右衛門・忠右衛門・五右衛門、右三枚之証文子極月廿日、

丑暮迄ニ利足壹割、惣田かい田書入有

一銀四拾貳匁三分五厘 五右衛門丑年酒代

一銀七拾匁四分四厘 忠右衛門丑年酒代

一銀三拾三匁貳分 二郎兵衛丑年酒代

右之通断有之候

前谷村馬主

一黒毛五才馬四疋 六介

一栗毛五才馬壹疋 同人

一同毛六才馬壹疋 同人

一鹿毛六才馬壹疋 同人

ノ七疋

右ハ板取口通り手形出し申候

一伏樋三ヶ所 宮谷村

一同壺ヶ所 清王村

一道水囲 舟津村

一水落江 城村

一同 新家

一水囲道・水戸共ニ 番田村

一同壺ヶ所并川除 重義村

一水囲道 田中々村

右之通村々を願状出し被申候

一高七百九石七斗四升五合 船津村

式百貳拾七石貳斗七升五合貳勺
内 清右衛門与
四百八拾貳石四斗六升九合八勺 徳兵衛与

同廿四日

一ミのて山壱ヶ所、借主権瀬二郎左衛門、貸主笹岡村与三右衛門、
代金壱両、来卯五月切買返シ申節ハ代金貳両之定証文ニ奥判仕候
一西方寺村太郎左衛門最前出入相済不申候由申来候ニ付、住所不極
者之事ニ候ヘハ出入取次申事難成候、細呂木之者ニ候ヘハ尚以其
所之支配人方々無断候而ハ、出入取次申事成不申候と申渡し候

同廿五日

一宗旨御改百姓判取申候、并貳番割之御金請取申候
一当御年貢金高々九分御取立之由申渡し候

同廿六日

一金六両当夏笹岡村ヘかし、此利壱割三分ニ而四拾六匁八分金七両
請取、拾三匁貳分余り銀有之二付もり銀之内ニ請取

一山壱ヶ所ミのて山、貸主権瀬二郎左衛門、借主笹岡与三右衛門、
代金壱両、卯五月切、若流れ候而買返し申度時ハ代金貳両之定

二候

一宗旨御改百姓判取申候、貳番割之御金請取申候
一当御年貢金高々九分御取立之由庄や長百姓中ヘ申渡候

一古金銀来卯三月切ニ新金銀ニカヘ申様ニと之御書付証文判取申候
一三国河内屋次郎右衛門御米宿ニ被仰付被下候様ニと、村々願状判
形取申候

一重義村と金津大文字や弥三兵衛出入之事、重義村庄や長百姓二段々
申聞候得ハ、先年々之かり銀御捨被下候ハ、惣田もうり不申、跡々
酒手を相済、此以後跡々之通出入も可仕由申ニ付、其段平右衛門
ニ申聞せ何とぞ其通相済可申由申候

同廿七日

一金津平野屋平右衛門方ヘ参候而、大文字や弥三兵衛と重義村との
出入之事、右布目彦兵衛嚙被申候通ニ相済申筈ニ申談候

一宗旨寺判取可申ため舟寄ヘ参候ニ付金津迄泊り申候

十一月廿八日

一今日々方々御寺方判形取可申ため舟寄ヘ参候

金拾六両三分 笹岡村



右ハ寅御年貢金之内舟寄ニ而請取申ニ付小手形出し申候、
此金 壱両三分 貳口ニ通ニ付
拾五両

同廿九日

一仲ヶ間三人共ニ舟寄善右衛門方ニ而寺判取申候

同晦日

一右同断

寅御年貢金三番割

一金貳両	前谷村
一金拾九両	笹岡村
一金拾五両	宮谷村
一金八両貳分	青野木弥次兵衛
一金四両貳分	同五十郎
一金三両	同権兵衛
一金貳分	西方寺村
一金五両	清王村
一金五両三分	赤尾村
一金貳両三分	横垣村
一金拾八両壹分	井江葭村
一金拾両	国影村
一金五両	牛山村
一金貳両壹分	城村
一金壹両	同新家
一金貳両	西谷村
一金拾八両三分	舟津村
一金拾両	十楽村
一金拾壹両	田中々村

一金八両貳分

番田村

一金八両三分

重義村

右之通近日取立可申由申触候

十二月朔日

一昨廿九日切二方々方判形相済申候得共、金津妙安寺判形二不被
 参候二付、舟寄村人足二而妙安寺呼二遣し申候、判形相済候
 一権瀬村二郎左衛門方々書状二而申越候ハ、笹岡村市右衛門米買く
 れ可申由申二付、為代金と拾両市右衛門二相渡し米請取可申と度々
 人を遣し候得共、市右衛門出違候而米相渡し不申候、其上市右衛
 門持高を前谷清左衛門方へ年季入申由二御座候間、右之外二市右
 衛門高二ハ貸懸ケ御座候間、御裏判願候共御押被下候様ニと申越
 候二付、其返事ニ市右衛門義其元二而吟味候而買米請取可被申候、
 高証文御裏判之義者押置可申候、併清左衛門方へも断置被申様ニ
 と申遣し候

一権瀬二郎左衛門又舟寄へ参候而申聞候ハ、右之市右衛門宿へ立寄
 不申何方ニ罷有候共慥ニ知不申候、江戸へ可参由支度仕候由承及
 候間、右埒共明不申候内ハ江戸へ参候事御留被下候様ニと申来り
 候得共、二郎左衛門ニ申聞候ハ、宿へも立寄不申何方ニ罷有候共
 相知不申候得ハ、昨今ニも江戸へ参候も相知不申候、併断之上ニ
 候へハ、市右衛門尋出シ江戸へ遣し申聞敷旨村へはいふハ遣し可
 申候、其方ニも随分被尋候而、市右衛門ニ埒明させ可被申候、江

戸欠落仕候跡ニハ出入可仕も相手無之候と申渡し候

同二日

一舟寄村を直ニ中ヶ間三人共ニ鯖江へ参候、則舟寄村なへ屋半左衛門・徳分田村六兵衛・御油田村清右衛門・南疋田村半兵衛・番田村久七・田中々村宇右衛門同道ニ而参、郡中庄屋惣代ニ参候由申上、御役人様方へ当御免之御礼申上候、其時々段々何れも能存知罷有候

一來卯三月切ニ古金銀不残新金銀ニかへ可申之証文壹通

一刁ノ年宗門五人組改帳拾九冊

一与下村々庄屋長百姓判鑑帳壹冊、右之三色共ニ藤介様へ指上申候

一貳番割之御金百五拾九兩壹分指上候

寅年諸色御直段之事

一油壹升ニ付 銀三匁八分八厘

一塩壹石ニ付 銀拾八匁五分壹厘

一半金納壹石ニ付 銀四拾五匁五分三厘

一半米納壹石ニ付 銀四拾三匁五分三厘

右之通被仰付候

一笹岡村市右衛門高之内拾壹石七升五合五勺、代金拾兩ニ而來卯土用を已之暮迄九年三年之年季を切、前谷村清左衛門方へ質物ニ入候間、御裏判被遊被下候様ニと笹岡清右衛門証文持参仕候得共、此高之義ニ付段々子細共有之候間御裏判申請度と申上候共、此高

むさと為質物ニ置申事成不申候と権瀬二郎左衛門方を断有之ニ付而、笹岡村宗左衛門方へ書付を以申遣し候ハ、此市右衛門高之義権瀬二郎左衛門方を押への断有之候ニ付、一兩日之内ニ罷歸り候而様子聞届御裏判可申請候間、我等罷歸候迄相尋可申候、此金子も我等罷歸り御年貢ニ請取可申金子ニ候へハ、延引候ても不苦候間相尋可申候、尤右之証文我等預り置候間、重而此手紙と引かへ相渡し可申候と手紙遣し候

一金五兩团右衛門様、金壹分武兵衛、右之金自分預り置申候

一金壹分善右衛門、同壹分平介、右之通被出候而仙右衛門様へ(マ)

一銀三匁九分貳厘、内割銀之半銀善右衛門分取かへ、内三匁十二月

四日ニ請取

十二月三日

一中勘定之義村切惣金辻之内年内請合何程之内、何程十二月朔日納、何程十二月十日切、何程十二月十七日切、何程廿三日切と相究、

帳面ニ判形取可申由被仰渡候

一 国絵図之儀ニ付村々御尋之事、別紙書付被遣候ニ付写取申候

一 笹岡村清右衛門・武兵衛高質物証文裏判取申候、かし主前谷村清

左衛門

同四日

一 鯖江を罷歸り候

同五日

同六日

一高拾八石 貸主新屋

番田村かり^注又左衛門
庄屋 兵右衛門
久七

代金五兩卯五月切

利足月貳分、自分奥判いたし候

一西拾三ヶ村庄屋長百姓中田中々村才兵衛方へ呼寄候而、中勘定惣高八分五厘年内御取立可被成由ニ候間、其通村々ニ而取立可有候、若右之通相済申事成申間敷候ハ、早々此方へ断可有候、村之内ニ而ねんを入せんき仕、重而請合帳判形被致候様ニと申渡し候、才兵衛方ニ泊り候

同七日

一田中々村の布目村へ参候

同八日

同九日

一織右衛門様昨日舟寄迄御越被遊候由善右衛門方の手紙遣し申候、今日織右衛門様後山へ御越之由ニ而我等も後山へ参候
一団右衛門様能州の一兩日中ニ御帰り可被成候間、当取立書付置見せ申様ニと御状被遣候

同十日

一柴山壺ヶ所 権瀬上野平山

一同山壺ヶ所

メ式ヶ所、代金貳両、貸主権瀬二郎左衛門、借主笹岡彦三郎、卯五月切之証文ニ自分奥判いたし候

一金壹両青野木弥次兵衛の盛銀ニ請取、内五拾八匁七分五厘盛銀ニ請取、壹匁貳分五厘錢ニ而返ス

一金三兩

此質高式拾石

卯六月廿日切、貸主十楽村庄兵衛、かり主青野木村庄や長百姓、我等奥判渡し候

一金貳分横垣の請取、内式拾匁八厘盛銀ニ入、残九匁九分貳厘錢ニ而返ス

一金壹両国影村の請取、内五拾五匁八分三厘盛銀ニ請取、残而四匁壹分四厘錢ニ而返ス

一金壹両三分銀七匁九分八厘、井江葭の盛銀ニ入

一金三分赤尾村の請取、内四拾匁九分貳厘盛銀ニ請取、残四匁八厘錢ニ而返ス

一金壹両清王村の請取、内拾九匁七分三厘者青野木村盛銀、三拾八匁八分七厘清王村分盛銀、残而壹匁四分錢ニ而返ス

一金壹分銀貳匁貳分壹厘西方寺村の請取

一金壹両貳朱宮谷村の請取、内六拾六匁五厘盛之内請取、残而壹匁

四分五厘錢ニ而返ス

一金壹分銀貳拾貳分五厘十樂ノ請取

十二月十一日

一金貳兩壹分城村ノ使義左衛門ニ而、内貳兩御年貢通ニ付壹分盛銀之内請取

一金八兩貳分十樂村ノ使与右衛門ニ而入、内六兩貳分御年貢通ニ付壹兩三分銀九匁五分八厘盛銀ニ入、残五匁四分貳厘錢ニ而与右衛門ニ返し申候

一金三兩田中々村宇右衛門ノ使北權兵衛ニ而入、内貳兩貳分御年貢通ニ付壹分拾三匁壹厘盛銀ニ取、残而壹匁九分九厘錢ニ而權兵衛ニ渡ス

一金八兩田中々村才兵衛ノ使伝左衛門ニ而入、内七兩貳分御年貢通ニ付壹分銀拾貳分三分盛銀ニ取、残貳匁七分錢ニ而伝左衛門ニ渡ス

一金三分銀貳匁西谷村盛銀ニ請取申候

一金壹分舟津清右衛門ノ盛銀ニ請取申候

一金壹兩壹分舟津德兵衛ノ入、内壹兩銀拾四匁貳厘盛銀ニ請取、残九分八厘錢ニ而返ス

一金壹兩三分銀九分六厘重義村ノ請取、内壹兩八庄右衛門ノ取、三分五右衛門ノ取、外二錢壹匁自分かし候て九分六厘請取済候
一金九兩番田村ノ使伝右衛門ニ而請取、内六兩三分御年貢通ニ付壹

兩三分四匁四分貳厘盛銀ニ取、拾貳匁五分五厘宗旨改帳かミ代ニ取、残拾三匁三厘内拾貳匁六分ちんニ入、残四分三厘過ニ而十二月廿三日久七二渡

一金壹兩牛山村ノ請取、内五拾四匁盛銀ニ請取、残四匁錢ニ而返ス
年内請合金包賃銀之覺

一銀三匁三分	此金拾壹兩	前谷村
一銀貳拾壹匁	同七拾兩	笹岡村
一銀拾六匁八分	同五拾六兩	宮谷村
一銀拾匁四分三厘	同三拾四兩三分	青野木村
一銀五匁貳分五厘	同拾七兩貳分	五十郎
一銀三匁三分	同拾壹兩	權兵衛
一銀壹匁五厘	同三兩貳分	西方寺村
一銀七匁八分	同貳拾六兩	赤尾村
一銀三匁三分八厘	同拾壹兩壹分	横垣村
一銀貳拾三匁四分八厘	同七拾八兩壹分	井江葭村
一銀拾貳匁九分	同四拾三兩	国影村
一銀六匁六分	同貳拾貳兩	牛山村
一銀四匁五分	同拾五兩	城村
一銀六分	同貳兩	新家
一銀三匁三分八厘	同拾壹兩壹分	西谷村
一銀七匁三分五厘	同貳拾四兩貳分	舟津 清右衛門
一銀拾五匁七分五厘	同五拾貳兩貳分	同 德兵衛

一銀拾四匁九分三厘 同四拾九兩三分 十楽村

一銀拾六匁九分五厘 同五拾六兩三分 田中々村

一銀拾三匁五厘 同四拾三兩三分 番田村

一銀拾三匁三厘 同四拾三兩三分 重義村

一銀六匁貳分三厘 同貳拾兩三分 清王村

ノ貳百拾壹匁貳分六厘 此金七百三兩三分

一金拾兩、貸主二面村喜右衛門、借主舟津村庄屋長百姓、此証文御裏判奉願候ニ付預り置候

一団右衛門様能州の今晚舟寄へ御着候得共、明日鯖江へ御歸り被成候ニ付、其段織右衛門様へ御断被仰達候ニ付、明後日十三日ニ織右衛門様此方へ御越可被遊由平介方の被申越候ニ付、村々庄屋中十日切請合不足金を持、十四日ニ参候様ニとはいふ遣し申候

同十二日

一金壹分前谷村の盛銀ニ請取、内拾貳匁五分九厘請取、残貳匁四分壹厘錢返ス

一笹岡村五拾貳匁九分の夏盛銀之不足、内六匁丑暮門松式鋳代ニ引、残四拾六匁九分、外銀九拾壹匁五分八厘の暮盛銀并ニ銀貳拾壹匁の御年貢金包賃、三口ノ百五拾九匁四分八厘、此銀ニ金貳兩三分請取、内五匁五分貳厘錢ニ而宗左衛門ニ返し渡ス

一田右衛門様能州の舟寄迄御着ニ候得共、鯖江へ御急用候而一先御越被成候而、二三日中ニ御出可被成由、其内ハ織右衛門様御吟味

被成候様ニと御状被遣候

一舟津村水吞百姓共懸り銀多候由訴ニ参候得共、庄屋を以断申様ニと申聞返し候

十二月十三日

一織右衛門様後山の今日はへ御越被遊候

一金壹分舟津村清右衛門の請取、内銀七匁五厘包賃、残七匁九分五厘預り有

一金貳分田中々村与右衛門の請取、内貳拾六匁貳厘盛銀ニ取、残三匁九分八厘錢ニ而返ス

一銀七分九厘新家盛銀ニ取

十二月十四日

一村々庄屋長百姓被召寄、年内請合金相違無之上納可仕由証文被仰付判形仕候、并御口米村々ニ預り置申由証文御取被成候、右兩通之証文織右衛門様へ指上申候

一村々十日切不足金請取候

一金津大文字屋弥三兵衛、重義村出入之儀ニ付断ニ参候付、則重義村之者共ニ申渡し候

一権瀬村二郎左衛門、笹岡村市右衛門義ニ付被参候ニ付、則笹岡村之者共ニ段々申聞候

一西方寺村御年貢、細呂木村太郎左衛門滞申ニ付呼寄詮儀仕候処、

下シ田年貢不足有之二付而滞候由申二付、先御年貢相済重而申上候様ニと申付候へハ何角申二付、下シ年貢之事急度可申付候間当御年貢不残皆済可申候哉と申聞候へハ、至極仕請合申候二付返し申候

一前谷村清左衛門酒寒造仕度候間酒桶符印御切被下候様ニと訴へニ鯖江へ参候二付、則田右衛門様当り取立之事段々委細以書状申上候

十二月十五日

一金百四拾八両三分 御年貢金

一金拾両 盛銀并包賃銀

一金壹分銀四匁 福井ニ而かい物代

右之通前谷村武右衛門ニ為持鯖江へ遣し申「」

(以下数丁欠損)